

浪能クランδροマン上演台本

(*Qui peut dire où vont les fleurs ?*)

花はどっへ行った

0

安倍枕流

【登場人物】

マリ（大学生）

父親

母親

コイシ（ストーカー）

異星人（Job星人）

チエコウインさん（近所のおばさん）

アナウンサー

他

1

小さな建て売り住宅。六畳ほどの和室。上手と下手に襖。正面は壁。その前には、幾つかの調度品。中央に卓袱台《ちゃぶだい》。卓袱台の下に、何故か、本が一冊落ちている。客入れの最中から、昨今《さっこん》よくある風に、役者が時々出入りする。

かすかに屋外のざわめき。ずいぶん遠くから、途切れがちに、「こちらは政府広報です。現在、巨大生物の活動は停止しています。この町内の外出禁止令は解除されました。注意報はなお発令中です。引き続き、ニュース速報等にご注意下さい」というような移動広報車の音声が流れてくる。

廳《やが》で、父親が茶碗、お箸、湯飲み、小皿なんかを抱えて現れ、上手側に坐わると、卓上に並べ始める。

やゝあつて、マリがおかずと味噌汁の這入ったお椀と急須をお盆に載せて運んでくると、下手側に坐わり、運んできたものを卓上に並べ出す。父親は、みんなの湯飲みに、急須からお茶を注いだりする。最後に、母親が炊飯器を下げて現れ、正面奥に坐わる。

マリ はい…… (ト、茶碗を母親に突き出す)
 母親 はい…… (ト、それを受け取ると、ご飯をよそって返す)
 父親 はい…… (ト、茶碗を渡す)
 母親 はい…… (ト、よそって返す)
 三人 いたゞきます……!!

三人は、徐《おもむ》ろに食事を始める。

父親がリモコンを操作して、客席側にあるはずのテレビのスイッチを入れる。テレビからニュースの音声が流れ出す。以後、ニュース音声は、途中にCMを挟みつゝ、テレビのスイッチが切られるまで、会話の背後で微《かす》かに流れている。例えば――「昨夜未明、イナギ市近郊に現れた巨大生物は、科学特別警備隊および巨人の防衛作戦によって、クロカワ付近の地中に逃げ込み、その後の活動は観測されていません。現在、イナギ市を中心に発令されていた外出禁止令は解除されましたが、西部を中心とした巨大生物注意報は引き続き発令中です。また、西部地区の一部交通機関は依然として停

止したまゝであり、復旧の目途は立っていません。なお、昨夜の戦鬪により、イナギ市郊外のマンション、民家、商店などが被災し、一部倒壊、炎上しましたが、現在のところ、死傷者は確認されていません。この件について、政府首脳は、未明過ぎから総理大臣官邸に集合、今後の対策について、意見交換を行いました。……」

父親 しかし、まあ、何やねえ……

母親 ハイハイ……（ト、まだ殆んど減ってない父親の茶碗にご飯をよそう）

マリ 言語学の授業でさ、先生が云ってただけど、手話ってさ、ことば使わないんだから、ジェスチャーとかの一種だと思っじゃない……？

父親 昔は、あちこちでやってたなあ……

母親 ハイハイ……（ト、又しても父親の茶碗にご飯をよそう）

マリ ところがね、日本語とかフランス語とかとおんなじ、ふつうのことばなんだって……

父親 いやあ、あの頃は、この国も活気に満ち溢れてたよなあ……

母親 ハイハイ……（ト、矢張り父親の茶碗にご飯をよそう）

マリ つまりね、ふつうの言語みたいに文法があるし、記号素とかなんとかいうのもあるから、ちゃんとした言語なんだって……

父親 何しろ、毎日のように現われてたんやからなあ……

母親 ハイハイ……（ト、どんどん父親の茶碗にご飯をよそう）

マリ 英語でも sign language 《サイン・ランゲージ》って云うんだけどさ……

父親 ……
父親 まあ、あの頃に較べたら、最近の連中ってのは、ほんま、大人しもんやなあ……

母親 ハイハイ……（ト、これでもかと父親の茶碗にご飯をよそう）

マリ なんといいってもさ、方言があるんだよね……

父親 とは云うものゝ、実は、お父さんも、大人し方やってんけどね……

母親 ハイハイ……（ト、親の敵のように父親の茶碗にご飯をよそう）

マリ それって、もう、ふつうの言語ってことじゃない……？

父親 ……（ト、しばし惘然《ぼうぜん》と自分の茶碗を眺めているが、やにわに猛然とご飯を食べ出す）

母親 あの事件ね、あの、例の、空き地でみつかった自動車の中の……

マリ たとえばね、お姉さんが京都の学校にかよってゝ、妹さんが奈良の学校にかよってゝ、どっちもふつうの手話を習ったはずなのに、あるものを指す手話がちがってゝ、通じないことがあったんだって……

母親 旦那さんが七十七で奥さんが八十でさ……

マリ 手話って、もともと人工的なものゝはずなのに、変だよね……

母親 あの自動車で、北海道から沖縄まで、ほんとに全国まわってたらしいじゃない……

マリ 人工的なものでも、人間が使ってるうちに、自然のものとおんなじになっちゃうんだねえ……

母親 介護保険は申請してなかったんですって……

マリ でさ、その言語学の先生、いろんな国のことばの「わたしはあなたを愛しています」っていうのを教えてくれてさ、手話のも教えてくれたんだけど……

母親 週刊誌にも出てたみたいよ、記事。「老夫婦、全国放浪の終点は天国」だって、ひどい見出しよねえ……

マリ こう云うんだって、「わたしは（先ず右手で自分を指す）、あなたを（掌を上にして前に差し出す）、愛しています（躰《からだ》の前で、左手の甲を右手で撫でるように、二回ぐるぐると回す）」……

母親 やっぱりこれからは、老人問題なのかしら……

マリ 手話習うのは、フランス語とかイタリア語習うのと同じしよで、別のことば習うことになるんだって。アメリカじゃ、聾《ろう》の人たちは「手話を母語とする言語集団」であって「障害者」じゃないんだってさ……

父親 （丁度、茶碗を平らげ）ふう……

母親 （すかさず）ハイハイ……（ト、ご飯をよそおうとする）

父親 いや、もう、えゝから……

母親 だって、お茶碗、空っぽじゃない……

父親 うん、その、堪能したから……

母親 おかず残しちゃって……

父親 いや、おかずは食べたいねん……

母親 じゃあ……（ト、再びご飯をよそおうとする）

父親 だから、おかずを食べたいから……

母親 あら、そう……

父親 けどまあ、何やねえ、こうして、一家揃って食事ができるのんも、云うたら、あいつらのお陰なわけやねえ……

母親 ハイハイ……（ト、又してもご飯をよそおうとする）

父親 だから、もうえゝねんで……

マリ でもさ、先月もおんなじこと云ってたよ、お父さん……

母親 お父さん、食いしん坊だから……

父親 何云うてんねん、一家で食事こそ家族の基本やないかいな……

母親 ハイハイ……（ト、父親の茶碗にご飯をよそってしまう）

父親 あ……（仕方なく、ご飯を食べる）

マリ （テレビに眼をやりながら） 今日も休講かなあ……

父親 まあ、お父さんが学生やった頃も、殆んど在って無きが如しやったけどな、授業は……

母親 （ト、父親が話してる隙に、その茶碗にご飯を盛る）けど、授業料払ってんですからね。（マリに）補講とかしてくれないの……？

マリ そんな、せつかく授業なくなったのに、あとでまとめてやられちゃ、たまんないよ……

母親 何云ってるんの、学生は勉強するのが本分でしょ……

マリ 勉強は、学校だけでするもんじゃないって、文部科学省も云ってるじゃん——（ト、何かゞ気になる様子で、襖の方に眼をやる）

母親 何……？

マリ ん、なんでもない……

母親 お父さんは、そろそろ支度しないと……

父親 けど、電車止まってるし……

母親 会社は休講にならないでしょ……

父親 いや、判らへんで、もしかしたら……

母親に、茶碗と箸を取り上げられた父親は、強引に、下手の襖の向こうに追いやられる。

ところへ、上手の襖が颯《さ》つと開き、チエコウインさんが這入ってくる。

チエコウイン いやあ、ほんま、えらいことなっまってまっせ、世間は——（ト、

父親のおかずに眼を付け）いや、こないに残さはってからに、勿体ない、戴いてよろしやるか……？（ト、云い乍《なが》ら、既に父親の居た場所に坐わり込み、茶碗と箸を手にしている）

マリ あ、おばちゃん、それ……

チエコウイン あゝ、構わんとってえゝよ、おばちゃん、別に、人が使こたもんやかて、全然気にせえへんし……（ト、自分で、お茶碗にご飯をよそう）
母親 お味噌汁のお代わりもあるわよ……

チエコウイン いや、おゝきに。それより、昨日の騒ぎ、結構大きかったでしょ……？

母親 そう云えば、何か、大きな音してたわねえ……

チエコウイン （パクパク食べながら）せやろ？ 実はね、三丁目のマンションのバルコニーがぶつとんでももうてね……

母親 へえ、三丁目の……

チエコウイン それが奥さん、ネヅさん家《ち》に落っこつてもうて、それもう、えらい騒ぎやつてんで……

母親 あら、ネヅさん家に……？

チエコウイン そやがな、こう、ネヅさんとの庭にドーンと落ちて、おかげで、離れがべつちゃんこ……

母親 えー、まさか、ネヅさんとお婆ちゃん……

チエコウイン 運のえゝことに、母屋行つてはったんで無事やつてん。何でも、嫁姑バトルの最中やつたらしで……

母親 嫁姑も戦つとくものねえ……

チエコウイン あつこの奥さんもお婆ちゃんも無茶苦茶元氣なんは、「常に敵と戦つてる」いう緊張感のせいやつて、もつぱらの評判やがな……

母親 そんな効能が……

チエコウイン その代わり、嫁と母親の板挟みになったご主人がどんどん寢《やつ》れてはるけどな……

母親 まあ、あそこのご主人、元々影薄かつたしねえ……

チエコウイン 今じゃ「家の世帯主」いう役割だけの人間で、実体の方が限り

なく消えてしもたから、こりや「本質が現実存在に先立ってる」いうんで、

「近所じやご主人のこと「反実存主義」て呼んでるぐらいや……

母親 そんな哲学的な渾名《あだな》が……

チエコウイン マリちゃんも、結婚するんやつたら、精々元氣なお姑さんの居てはるところにしいや……

マリ はあ……

母親 まあ、当分ないでしょうけどね……

チエコウイン いやいや、今日の若い人らは、いつ何どき「でけちやつた結婚」するや判らへんで……

母親 幾ら私達が、リベラルな団塊の世代だからって、「できちやつた結婚」は、一寸ねえ……

チエコウイン 何云うてまんねんな、でけちやつたでも、作っちゃつたでも、まさされる宝、子にしかめやも、山上憶良《やまのうえのおくら》ですがな……

母親 まあ、そうかもしれないけど……

チエコウイン 子供が産まれるいうんは、もうそれだけで、国中お祝いの明るいニュース、況《ま》してやこの少子化の時代、どんどん産んで、ばんばん

育って、がんがん稼いでもらわんことには、ウチらが年寄りに成ったときの
年金が心配で心配で……

母親 まあまあ、わたしたちの世代は安心だから……

マリ おばちゃんには悪いけど、そんな相手、いませんから……

チエコウイン あーら、何云うてんのん、王子様なんていうんは、忽然《こつ
ぜん》と現われるもんやがな、こう、獲物をつけ狙ろてたクロヒョウが、ガ
バツとインパラに飛び掛かるように……

母親 犯罪です、それ……

マリ でも、そういえば、最近、なんか、ずっと見られてる気がするのよね……

……

母親 えっ、それって――

母親 ストーカー……！

チエコウイン 王子様……！

マリ たぶん、気のせいだと思っただけ……

チエコウイン セやけど、諺にかて云うやろ、「壁に耳あり障子にメアリー・
スチュアート」……

やにわに立ち上がったチエコウインさん、下手の襖をバツと開く。
ト、そこには、イングランド女王エリザベス一世に幽閉された十六
世紀のスコットランド女王ではなく、スーツ姿に着替えた父親が立
っている。

父親 あ、人のおかずを……

チエコウイン うーん、自分の娘をストーカーキングするとは……

父親 何を勝手なことを……

チエコウイン ということは、別人か……

マリ だから、違っつてば……

チエコウイン (卓袱台に戻り、味噌汁をぐつと飲み干すと) くら、テッテ
テキに追求せなあかん。マリちゃんにストーカーみたいな王子様がでけたと
は……！

マリ まだ、いと決まったわけじゃ――

チエコウイン (味噌汁のお椀を卓袱台にドンと置き) ご馳走さん！ (父親

に) ほな、行きましょか……！

父親 行きましょかって、どこへ……？

チエコウイン 何云うてはりますねんな、マリちゃんに危険か幸福かその両方から迫ってますねんで……！

父親 いや、もう、出勤時間ですから……

チエコウイン じゃ、一緒に参りましょう……！

父親 いや、その……

有無をも云わせず父親の腕を引つ掴むと、嵐の如く上手の襖から出ていくチエコウインさん。

母親 あ、お父さん、お弁当……！

一旦下手の襖から引つ込んでお弁当の包みを取ると、周章てゝ後を追う母親。

マリ やれやれ……（空の食器をお盆の上に片付け始める）

アナウンサー ……昨夜未明、日本各地で大きな流れ星が観測され、国立天文台などに問い合わせが相次ぎました。国立天文台によりますと、これは「火球《かきゅう》」、fire ballと呼ばれるもので、主に流星群や小さな隕石によ

って生じるとされていますが、そのような天文現象は観測されておらず、謎の流星として、天文ファンの間では話題になっています。一部では、打ち上げが公表されていないアメリカや旧ソ連の軍事衛星の一つが落下したのではないかとの見方も出ていますが、科学特別警備隊では、巨大生物との関連で、詳しい調査を行なう模様です。続いて、今日の天気です……

マリ、食器を片付けているうちに、お箸を一本、床に落としてしまふ。落としたお箸を拾おうとして、卓袱台の下の本に気付き、拾い上げる。マリは、本の表紙を見て、一寸怪訝な顔をするが、卓袱台の前に坐わり直すと、徐ろにその本を広げる。本の背表紙には『星の神話』と書かれている。

マリ 「五月の半ば、午後八時頃、外に出て東の方を見上げると、左手の天の頂き近く、北寄りの空に、北斗七星が横たわっています。そこから南寄りに眼を転じると、蒼白く光る星、乙女座のα星、スピカが眼にはいります。北斗七星のひしゃくの柄に沿ってカーヴを描いてゆくと、このスピカに届きませんが、このカーヴは『春の大曲線』と呼ばれています。そして、この春の大曲線の真ん中、ちょうど東の正面に、一際明るい橙《だいたい》色の星があ

ります。○・二等星、全天でも四番目に明るい星、牛飼い座のα星、アルクトウルスです。この牛飼い座は、大熊座の神話の主人公だったニンフ、カリストーの息子、アルカスの姿とされています。ゼウスの子供を身ごもってしまったカリストーは、ゼウスの妻、ヘーラーの怒りを買って、アルカスを出産した後、熊の姿にされてしまいました。十五年後、祖父の元で育てられていたアルカスは、ある日、森に狩りに行って一頭の熊と出会いますが、その熊こそ、実の母カリストーでした。カリストーはアルカスを我が子と認め、喜んで声をかけますが、それが熊の鳴き声にしか聞こえなかったアルカスは、熊に向かって槍を投げようとしています。これに気付いたゼウスは、その瞬間、両者を天に上げ、悲劇を食い止めたのです。『アルクトウルス』とは、ギリシア語で『熊の番人』という意味ですが、これは、牛飼い座が、大熊座を追って天を動くことから名付けられた名前でしょう。日本では、この星のことを、麦の収穫シーズンに南中することから、『麦星』と呼んでいました」：ふーん。不倫にレイプに尊属殺人未遂か……。いやあ、平凡な家庭でよかったよかった……。(リモコンでテレビを消すと、お盆を持って立ち上がり、序でに本を戸棚に仕舞う)流れ星か……。けど、まあ、これといつてないか、願いたい事……。 (下手に去る)

16

2 娘 (Les jeunes filles)

無人に成った茶の間。ト、上手の襖が静かに開いて、コイシがこっそり這入ってくる。

周囲を気にしつつ、空巢の如く室内を物色するコイシ。あちこちを調べた挙げ句、戸棚に仕舞われていた『星の神話』を手取る。そのまゝ、今度は戸棚の扉を開けてみる。と、そこにはチエコウインさんが詰め込まれている。駭《おどろ》いたコイシは、周章で、扉を閉める。考え込むコイシ。深呼吸の後、再び扉を開くと、矢張りそこにはチエコウインさん。仰天したコイシが扉を閉めて、中から開けられないようにしっかり押さえ付けていると、下手の襖がガラリと開いて、チエコウインさんが堂々と現れる。

17

コイシ (腰を抜かして) うわッ……!!

チエコウイン ナニ腰抜かしとんねんな、丸で両手が鉄の宇宙人にでもバッタリ逢うたみたい……

コイシ (口をぱくぱくさせ乍ら、戸棚の扉と襖を交互に指し示す) ……

チエコウイン まあ、気にしな。それよりあんだ……

コイシ あ、その……

チエコウイン (制して) まあまあ、皆まで云いな。あんたも、その手つきからしたら、プロでもないやろ。偶々《たまたま》、この家、鍵掛け忘れとっ
たんで、つい、出来心でいうやつぢやな……？

コイシ いや、その……

チエコウイン まあまあ、云わんでえ、云わんでえがな。コーゾーカイカ
クの痛みに耐えかねて、人の道を踏み外してもた人間が、こゝにも一人……！

コイシ 実は、その……

チエコウイン まあまあ。あ、こゝの家の通帳と印鑑やつたら、そんなところ
はあれへんで……

コイシ はあ……

チエコウイン 「インカン遠からず、カコーノヨに在り」云うてやな——(ト、
その辺を探ると、手品の如く、銀行通帳と印鑑を取り出してみせ)さ、これ
を……

コイシ と、云われましても……

チエコウイン 遠慮せんと……

コイシ いえ、その……

チエコウイン その代わり(目配せして)、勿論、判ってるやろ……？

コイシ は……？

チエコウイン ほれ、「魚心あれば、水心あり」云うてやな……(ト、手を出
す)

コイシ ……？(それを真似て手を出し、思わず握手)

チエコウイン (手を振りほどき) ちやうがなッ。(通帳を示して) これは、
あんたのもん、けど、手数料兼口止め料——

コイシ えッ……

チエコウイン あ、明日以降でえ、から、(ポケットから紙切れを出し)こゝ
に振り込んで……

コイシ ですから——

チエコウイン 何やいな……？

コイシ その、僕は、決して空巢に這入ったわけではないのです……

チエコウイン 又々、そんな……

コイシ いえ、本当に空巢なんかではないのです……

チエコウイン ……

コイシ ……

チエコウイン (疑わしげに) ホンマ……？
コイシ ハイ……
チエコウイン (改めてコイシをジロジロ眺め) ほな、あんた、一体……？
コイシ ……
チエコウイン ……
コイシ (突如、部屋の片隅を指さし) あ、あんなところに、台湾製の偽造一万円札が……！
チエコウイン えーッ、どどこどこッ……？

その隙を突いて、上手に逃げ去るコイシ。

チエコウイン アッ、騙したわねッ。ちよいとお待ちッ……！

通帳と印鑑を持ったまゝ、コイシの後を追って去るチエコウインさん。

再び無人と成った茶の間。ト、何やら怪しげな音と共に、照明も不思議に変化して、スモークが溢れ、閃光が走る。そんな中、戸棚の中から、異星人が現われる。

異星人は、興味深げに部屋の中を見回すと、下手の襖から去る。異星人が去ると同時に、音も明かりも元に戻る。
途端に、上手の襖が開いて、父親が飛び込んでくる。

父親 おい、今、こゝ、誰か——あれ、おかしいな……？

下手の襖からマリが出てくる。

マリ あ、お父さん……
父親 おい、さっき、こゝに誰かおれへんかったか……？
マリ お母さんと、チエコウインさんがいたけど……
父親 いや、つい今しがたのこっちやがな……
マリ うゝん……
父親 ほな、気のせいかいな。にしては、煙が……
マリ それより、お父さん、会社……
父親 いや、駅まで行って、矢っ張り電車でいてへんから、どないしよかと思てたら、今日は、自宅待機やて連絡あったんや……

マリ でも、お母さん、お弁当忘れたからって、おいかけてったよ。途中で会
わなかった……？

父親 会えへんかったで……

マリ ふーん、変なの……

父親 まあ、お母さん、うっかりモンやからな、道でも間違うたんやろ。それ
より、玄関の鍵掛けてなかったやろ、不用心な……

マリ お母さん、あわてゝおっかけてったから……

父親 だから、お母さんはうっかりモンや云うてるやろ。マリがしっかりせな
……

マリ ハイハイ……

父親 けどまあ、マリはしっかりモンやからな……

マリ アハ、どうしたの、急に……

父親 いや、別に……（下手の襖から出て行くこうとする）

マリ あ、おかず、まだ残ってるけど……

父親 （出て行き乍ら）いや、もうえゝわ……

マリ、一寸首を傾げるが、ふと戸棚の扉が開きっ放しになっている
のに気付く。再び首を捻りつゝ、戸棚の所へ行って、開きっ放しの
扉を閉めたところへ、上手の襖から母親が帰ってくる。

マリ あ、おかえんなさい……

母親 間に合わなかった、これ……（ト、お弁当の包みを示す）

マリ さっき帰ってきたよ、お父さん……

母親 え……？

マリ 自宅待機になったんだって、会社……

母親 なーんだ……（お弁当の包みを卓袱台の上に置き、坐わり込む）

マリ ついさっき帰ってきたとこ……（同じ様に、卓袱台の前に坐わる）

母親 へえ。どうして行き違いになったんだろ……？

マリ うん……

母親 駅まででしょ、センダギさんここで曲がるんじゃないの……？

マリ たぶん……

母親 変なの……

マリ （くすりと笑う）……

母親 何よ……

マリ いや、なんかね……
母親 何が……
マリ イシンデンシンとかさ……
母親 以心伝心……？
マリ 夫婦なんだからさ、以心伝心でわかるとか、そういうの、ないのかなと思っ
て……
母親 あるわけないでしょ、そんなの……
マリ 断言するね……
母親 当たり前じゃない……
マリ ふうん……
母親 だって、所詮、他人だもん、夫婦って……
マリ そう……？
母親 先のことかも知れないけど、マリも結婚すれば判るわよ……
マリ 結婚……
母親 するんでしょ、いつかは……？
マリ さあ……
母親 泣くわよ、お父さん、お嫁に行くとき……
マリ まさか……

母親 あゝ見えて、涙脆《もろ》いんだから……
マリ ……でも、わたし、この家、好きだもん……
母親 ……出て行くわよ、きっと……
マリ ……
母親 ……
マリ けどさ、カイロードーケツとか云うじゃん……
母親 え……？
マリ 夫婦の関係って、普通と違うっていうことでしょ……？
母親 (軽く否定の身振り) 「偕老同穴」っていうのは、単に「夫婦仲が良い」
ってことよ……
マリ そうだっけ……
母親 そうです……
マリ そっか……
母親 そうよ……
マリ ……
母親 ……
マリ ……

母親 (微かに笑って) ほんとに、近頃のワカイモンは、言葉知らないんだから……

マリ (不意に) あ……

母親 何……？

マリ 風……

母親 閉めたわよ、玄関……

マリ (くんくんと匂いを嗅ぐ) ……

母親 匂う、何か……？

マリ なんか、昔、よく遊んだ野原の……

母親 野原の……？

マリ お花……

母親 本当……？ (自分も嗅いでみる)

マリ と思ったけど、気のせいみたい……

ト、普段着に着替えた父親が、下手の襖から現われる。

父親 (母親を認めて) 玄関、鍵、掛けたか……？

母親 掛けました……

父親 ちゃんと確認したんか……？

母親 しましたよ。(マリに) ほんと、お父さんて心配性なんだから……

マリ この家、たいせつなんだよ、お父さんには……

母親 ……

マリ (父親に同意を求めて) ねえ……

父親 当たり前やないか……

マリ・母親 ……

父親 三人の家なんやから……

マリ (少し咲《わら》って) うん……

母親 (父親に) 家も良いけどさ、忘れ物しないでよね……

父親 いや、今日は、チエコウインさんが強引に……

母親 次は追い掛けないわよ……

父親 ハイハイ…… (坐わる)

母親 ハカラズも良い運動に成っちゃったわ……

父親 いや、偶には運動もせんと……

母親 お父さんこそ、運動しなくちゃ……

父親 昔はやったもんやけどなあ……

マリ (父親をしげしげと眺め) 相撲とか……？

父親 いや……

母親 野球とかでしょ……

父親 まあ、似てるかな……

マリ じゃ、ソフトボールのキャッチャー……？

父親 おい、マリ、体型に偏見あるんとちゃうか……？

マリ だって、伴宙太とか山田太郎とか八幡太郎平とか……

父親 八幡先輩は普通の体型やろ……

マリ 田淵幸一とか香川伸行とか千代大海とか……

父親 お相撲さん混じってる混じってるッ……！

母親 キャッチャーじゃないでしょ、お父さんは……

父親 どっちか云うと、投げる方やな……

マリ えー、じゃ、ピッチャー……？

父親 いや、ボールやないねん……

マリ じゃあ、何を……

父親 一寸、この、火炎瓶などを……

母親 その運動やったんかいッ……！

マリ お母さん、関西弁になってるよ……

母親 ホ、……

父親 まあ、結構投げた方やろね……

マリ お父さん、ゼンキョートーだったんだ……

父親 (遠い目をして) 想い出すなあ、一九六九年一月の東大・安田講堂陥落、

九月の京大・時計台陥落……

マリ 陥落してばかりじゃん……

父親 あの頃は、全世界が連帯しとったんや。一九六八年四月、アメリカ・コ

ロンビア大学では、ハミルトン・ホールを学生が占拠、警官隊に排除された

……

母親 負けてますよ、矢っ張り……

父親 同年五月、パリ・ソルボンヌ大学では学生デモ隊と警官隊が衝突、フラ

ンス全土に反ドゴール大統領派のストライキが広がったけど、六月末の総選

挙でドゴール派が圧勝……

母親 だから、負けてるって……

父親 東欧でも連帯があった。三月にはポーランド、ワルシャワ大学で学生が

デモ、警官に鎮圧された。四月にはチェコスロバキアで言論の自由が認めら

れ、「プラハの春」が訪れたんやが、ソ連他五ヶ国連合軍に首都を占領され

て、改革は挫折した……

母親 (非難がましく父親を見る) ……

父親 「敗者の美学」やないか、なあ（ト、マリを見る）……

マリ （知らんぷりで、手近の新聞を見ている）……

父親 「連帯を求めて、孤独を恐れず」ッ！ あゝ、「いちご白書」をもう一度……！（拳を突き上げる）

母親 （マリに）何か、テレビ、なかったっけ……？

マリ （新聞を引つ繰り返してラ・テ欄を眺め）この時間だと、二時間ドラマの再放送か、ニュースぐらいかなあ……

父親 （拳を下ろしつゝ）あの年は、円谷幸吉も自殺したし、大横綱・双葉山も死んだんや……（淋しい）

母親 ハイハイ、ニュース見ましょ……（ト、リモコンを押す）

3 若者 (les garçons)

巨大なテレビの枠が現われ、その中でニュースが始まる。

アナウンサー 昨夜未明、巨人との戦闘により地中に姿を消した巨大生物の活動は、その後も観測されず、現在も停止したまゝです。これにより、イナギ

市を中心とした外出禁止令は解除されましたが、巨大生物が地中に潜ったことから、その現在位置を特定することが困難となり、西部を中心に発令されていた巨大生物警報は、首都圏全域に拡大されました……

母親 まあ……

マリ 今回のヤツって、地底巨大生物なんだ……

母親 昨日ニュースで云ってたじゃない……

マリ そうだっけ……

アナウンサー 昨夜観測された巨大な流れ星について、科学特別警備隊は、異星人の円盤の可能性が高いことを発表し、防衛庁および警察庁に、警備ならびに捜索の協力を依頼しました。科学特別警備隊では、この円盤が、昨夜、巨大生物の活動があったイナギ市付近に着陸したとの見方を示しています。現在のところ、この異星人と巨大生物との関連は確認されていません。これを承けて官邸では、首相以下の主立った閣僚が集まり、今後の対策について協議を行いました……

母親 ちよっと、また変なのが来ちゃったみたいよ……

マリ この辺なの……？

父親 ほら、せやから云うてるやろ、鍵、確認しとけて……

ト、ブリッジが流れて、テレビの枠の中に、突如合唱団が現われ、徐々におもむろに「ヴォルガの舟歌」を歌い出す。

合唱隊 ヘイコーラ、エイコーラ、も一つエイコーラ……

ところへ、現われるチエコウインさん。

チエコウイン お母ちゃんの為なら――

合唱隊 エイコーラ……

チエコウイン も一つおまけに――

合唱隊 エーンヤコーラ……

チエコウイン ……

合唱隊 ……

チエコウイン お呼びでない……？

合唱隊 シャボン玉ホリデーかッ……！！

チエコウイン こらまたシツレイしました……！！

ト、チエコウインさんは走り去り、合唱隊はずっこけ乍ら去る。

マリ これ知ってる、「ヴォルガの舟歌」じゃん……

父親 今の、チエコウインさんちやうか……？

母親 アレクサンドル・グラズノフの「ステンカ・ラージン」の冒頭でも使われてたわね……

父親 なあ、今の、どう見ても、チエコウインさんやろ……？

マリ 世界史で習ったよ、「ステンカ・ラージンの乱」。ロシアのドン河流域のコサック兵たちの反中央運動だよね……

父親 あの、チエコウインさん……

母親 一々五月蠅くうるさくいわね、いゝのよ、チエコウインさんなんだから……

父親 そうなん……？（釈然としない）

マリ ねえねえ、「静かなるドン」のドンで、ドン河のドンだって、知ってた……？

母親 へえ、「ドン」って、「親分」のことだと思ってた……

マリ イタリア語とかスペイン語の Don は、ほとんど「ミスター」とか「ムツシュー」の意味だけだね、「ドン・キホーテ」とか「ドン・ファン」とかさ……

父親 「静かなるドン」。旧ソヴェエト連邦のノーベル賞作家、ミハイル・シ
ョーロホフの大河小説。歴史に翻弄されるドン河流域のコサック、ドン・コ
サックの話や……

マリ さすがは、元ゼンキョートー……

父親 「静かなるドン」の最初に子守歌が出てくるねんけど、そこから出来た
歌がある……

マリ 子守歌から……？

父親 一九五五年、アメリカのピート・シーガー(Pete Seeger)が作って歌ったフ
ォーク・ソング、「花はどこへ行った」……

微かに「花はどこへ行った」(Where have all the flowers gone?)のメロ
ディーが流れる。

父親 流行ってたんや、あの時代……

母親 また昔話……？

父親 この歌、ピート・シーガー以外にも色んな人がカヴァーしてる。ピータ
ー・ポール&マリーとか。あのマレーネ・デートトリツヒもフランス語で歌と
てたりする……

マリ デイトトリツヒだよ……

父親 え、ねん、デートトリツヒで。黒い鼠がおるのはデズニerland、雀斑
《そばかす》なんて気にしないのはキャンデー・キャンデー、DD《デー・
デー》五一型はデーゼル機関車……

母親 お父さんたら、直ぐムキになるんだから……

マリ しかも、鉄道マニア《てっちゃん》だし……

父親 けど、あの子守歌、どんなんやったかな…… (考え込む)

マリ へえ、お父さん、読んだんだ、あれ……

父親 まあね……

マリ でも、あれ、めちやくちや長篇だよ……

母親 どれくらいあるの……？

マリ (手で幅を示してみせる) そうねえ、中央公論社・世界の文学版ならこ
れくらい(約一五センチ)だけど、筑摩世界文学体系版ならこれくらい(約
七センチ)かな……

母親 ほお……

父親 第一部だけしか読んでないんやけどね……

マリ・母親 なーんだ……

父親 最初の方に出てきたんやけどなあ……

マリ 本はないの……？
父親 多分ある筈やけど、随分昔の本やから、どこに置いたか……
母親 けど、お父さんに、そんな過去があったとは……

ところへ、移動広報車の音声が入り始める。「こちらは政府広報
です。昨夜観測された巨大流星は、異星人の円盤の可能性が出てき
ました。その場合、この附近に着陸した可能性があるので、不
審な人物、生物、物体を見掛けた場合は、声を掛けたり近付いたり
しないで、速やかに最寄りの警察または科学特別警備隊までご連絡
下さい」……。

36

母親 何だか、最近、多いわねえ……
マリ 巨大化したらすぐわかるんだけどね……
父親 そういえば、玄関の鍵、掛かってなかったよな……
マリ じつはひそかにはいりこんでたりして、異星人……
母親 厭なこと云わないでよ……
父親 いや、判らへんで、この襖を開けたら立ってたりとか……

ト、立ち上がった父親が下手の襖を開けると、お約束通り異星人が
立っている。
急いで襖を閉める父親。

父親 ……見た……？
マリ・母親 (項突く) ……
父親 でも、普通の人間やったやろ……？
マリ 地球人型の異星人かもよ……
母親 ストーカーってことは、あり得ない……？
マリ あ、わたし、けっこう、女の子にも人気あるよ……
母親 じゃあ、きつとそうよ……!!
父親 おいおい、何でそんなんねん……
母親 だって、異星人とストーカーなら、まだストーカーの方がマシじゃあり
ませんか……
マリ どっちかって云うと、わたしは逆だな……
父親 どっちも厭やで……
母親 でも、どっちかなんだから……
父親 そんなことないがな……

37

母親 じゃあ何だつて云うんです？ 凶悪な脱獄囚とかなら、わたしは厭です
よ……
父親 待てよ、もう一遍……

ト、下手の襖を開ける、再び、急いで襖を閉める父親。

父親 な……？
母親 何が「な？」なのよ……
父親 女の子や……
母親 でも、頭に何か生えてましたよ……
父親 最近流行の髪型ちゃうか……？
母親 奇抜にも程がある……
マリ じゃあ、やっぱり……
三人 異星人……

途端に、何やら怪しげな音と共に、照明も不可思議に変化して、ス
モークが溢れ、閃光が走る中、襖が勝手に開いて、異星人が這入っ
てくる。

思わず後じさる三人。

異星人 ……
父親 あ、あの、な、何か……
異星人 (何やら身振り) ……
父親 は……？
異星人 (三人の方を指し示す) ……
父親 え、何……？
マリ こつちを指さしてる……
母親 お父さん、さあ……
父親 いや、何せえ云うねん……
異星人 ぴ……
父親 喋った……！
母親 (父親に) 何て云ってるの……？
父親 判るかいな、そんなもん……
マリ 地球人語が話せないんだ……
父親 でも、こんな時は、普通、テレパシーで直接話し掛けたりするんとちや
うの……？

母親 さあ、何しろ、異星人に会うの初めてだから……
異星人 ぺ……

父親 待てよ、昔、映画で見たことがあるぞ。こういう場合は……

ト、父親、伸ばされた異星人の人差し指へ、同じ様に自分の人差し指を伸ばしてゆく。徐々に近付いてゆき、到頭、指先が触れ合う、ト、その瞬間、異星人の指が父親の顔を突く。

父親 (顔を押しえて蹲へうづくまり)き、汚いやツ……

異星人 ぽ、ぷ、ぱ……

マリ よろこんでる……

母親 お父さん、まんまと引っ掛かったわね……

マリ 冗談好きの異星人だ……

父親 ちやうやろツ……!

母親 まあまあ、お父さんも、地球人げがない……

父親 今のが友好的な態度か……?

異星人 ぴ……(再び、三人の方を指さす)

父親 二度とその手には乗らんぞ……

母親 二度も使いませんよ、普通……

マリ ほら、最近、不審な異星人が多いからって、市の広報に、対処マニュアルみたいな載ってたじゃない……

母親 あゝ、あつたわね……

父親 それやそれや……!

母親 でも、昨日、古紙回収に出しちゃった……

父親 ……まさか、被災時用の非常食も食べてもうてるのでは……

母親 あ、バレた……?

マリ (異星人の指さす方を追い) あ……

母親 何……?

マリ (卓袱台の上のお弁当の包みを取り上げ) もしかして、これじゃないかな……

母親 お弁当……?

マリ ね……?(ト、異星人の方に、包みを示す)

異星人 ぷ、ぽ、ぴ……

マリ ほら……

父親 って、判るんか、マリ……?

マリ ぜんぜん……

母親 よし、渡してみよ……
父親 大丈夫か……？
母親 勿論、お父さんが渡すに決まってるでしょ……
父親 えー……

父親、マリから包みを受け取ると、恐る恐る近付き、足下に置いて、速攻で戻ってくる。

ト、異星人、包みを開き、美味しそうにばくばく食べ始める。

マリ ほらね……
母親 可哀そうに、お腹空いてたのね……
父親 ほんまかいな……
異星人 ペ、ぷ……
マリ でも、なんて云ってるんだらう……？
母親 マリ、言語学の授業で、何か習わなかったの……？
マリ さすがに異星人語までは……
母親 でも、ほら、何か、ジェスチャーとか……
マリ あ……（ト、思い付いて、手話で「私はあなたを愛しています」と話す）

異星人 ぼ……？
マリ （再び、手話）……
異星人 ……？（お弁当を置いて、マリの真似をしようとする）
マリ （みたび、手話）……
異星人 ぷ……（真似をする）
父親 通じてんのか……？
母親 さあ……
父親 （異星人をつくづく眺め）で、どないしたらえもんやろ……？

ト、上手が何やら騒がしくなる。

チエコウインの声 あ、何や、玄関、鍵掛かっているやん……！
三人 （思わず、顔を見合わせ）……！
チエコウインの声 （ガチャガチャとドアノブを乱暴に引っ張る風）もう、こないなときに鍵掛けている場合かいな……！
父親 掛けるで、普通……
母親 それより、この子を何とかしなくちゃ……
マリ でも、この子、悪いことなんかしてないよ……

父親 お父さんの顔、突いたぞ……
マリ だから、あれは、スキンシップだよ……
母親 兎に角、チエコウインさんに知れたら、半径二キロ以内の地域に、一瞬で伝わるわよ……
マリ (異星人に、身振りで) えーと、そっちにひっこんで……!
異星人 ぴゃぷ……？

焦れたマリ、お弁当箱ごと異星人を奥へ押し遣る。
すかさず父親が襖を閉じると同時に、どかどかと音がして、チエコウインさんが上手の襖を蹴破らんばかりの勢いで駆け込んでくる。
チエコウインさんは、何故か、右手にロープの端を握っている。

母親 あーら、チエコウインさん……
チエコウイン 奥さん、さっきの広報車のニュース聞かれました？ この辺り、えらい物騒やて……
父親 チエコウインさん、あんた、玄関の鍵はどうやって——
チエコウイン (無視して) 不審なモノがうろうろしてて……
母親 そうそう。だから、不審なモノを発見したら——

チエコウイン 不審なモノなら、発見済みよ……!
三人 エッ……
チエコウイン さあ、こっちへ、カモンツ……!

ト、チエコウインさんが右手のロープを引っ張ると、その先には、
両腕を縛られたコイシが。

チエコウイン ほら……!
母親 誰……？
チエコウイン 不審なモノ……
マリ なにモノ……？
チエコウイン ストーカー……
父親 ということは、ゾーンを指摘す……？
チエコウイン そりゃ、タルコフスキーの映画やがな……
マリ お父さん、ロシア・マニアだったんだ……
母親 で、誰の……？
チエコウイン 勿論、マリちゃんの……
マリ あ、やっぱり……

母親 王子様じゃなかったんだ……
チエコウイン しかも、この家に勝手に侵入して……
父親 ほら、矢っ張り、鍵、掛かってなかったから……
チエコウイン 大丈夫。ちゃんと侵入したところで、発見したから……
父親 その時、あんたはどこにおったんや……？
チエコウイン (無視して、コイシに) あんた、名前は……？
コイシ コイシです……
チエコウイン いつからマリちゃんのことストーキングしてたん……？
コイシ 半年ほど前から……
マリ えー、そんな前から……
チエコウイン さッ、お謝んなさいッ……！
コイシ (頭を下げる) 大変、失礼致しました……
マリ (コイシの持っている本に眼を留め) あれ、その本……？
コイシ あ、これ——
チエコウイン まあ、あんた、不法侵入に加えて、窃盗まで……！(ト、叫び
つゝも、持っていた通帳と印鑑を、皆に隠し乍ら、元在ったところに在った
ところに返却する)
コイシ いえ、その、これは、僕のなのですよ……

チエコウイン なーんだ……
マリ でも、それ、さつきまで、卓袱台の下に落ちてたんだだけ……
コイシ 実は、昨日の晩、この辺一帯の避難命令が出たときに、落としてしま
ったのです……
マリ 落としたって、この家の中で……？
コイシ そうなのです……
母親 ということは、私たちが家を空けてる隙に……？
父親 何や、まさか、昨日も鍵を……
母親 お父さんが掛けたじゃないですか……
父親 うん、そや、確かに掛けたぞ……
チエコウイン (コイシに) さてはあんた、常習犯やな……？
父親 常習犯……？
チエコウイン さあッ、道具をお出シッ……！
コイシ (ポケットから、何やら道具を取り出す) はい……
父親 何や、これ……？
コイシ これは、ピッキングの道具なのです……
母親 ピッキングって、鍵、勝手にあけるやつ……？
コイシ はい、インターネットのオンライン通販で手に入れたのです……

チエコウイン で、何回目……？

コイシ 這入り込んだのは、今日で三回目ですが、ピッキングしたのは、まだ二回だけなのです……

父親 二回だけって、二回もやってりや充分や……！

母親 ほら、鍵掛けてゝも、やられるときは、やられるのよ……

父親 いや、そういう問題やないやろ……

チエコウイン で、動機はッ……？

コイシ 勿論、最初は、マリさんのことをよく知るためでした……

チエコウイン うーん、そりや丸でストーカーやがなッ……！

母親 だから、ストーカーでしょうが……

父親 まさか、色んなもん物色したんやないやろうな……？

チエコウイン せやせや。どうせ、異性にモテへんオタクなんやろ？ そない

なヤツの考えるこというたら……あゝ、想像するだに恐ろしい……！

父親 (母親に) お母さん、この半年で、何かなくなったもん、ないやろな……

……？

母親 さあ、別に……

チエコウイン いや、絶対盗ってるはずや。異性にモテへんオタクでっせ、無人の家でっせ、そらもう、盗らへんはずがない……

母親 何を……？

チエコウイン そんなんハズカシイて、云えますかいな。あー、ハズカシイ……

… (ト、顔を手で覆う)

マリ もう、変な想像しないでよ……！

父親 許さんッ！ もしも洗濯物なんかを――

コイシ いえ、窃盗なんかはしないので……

チエコウイン ほな、何のために……？

コイシ ですから、最初はマリさんのことをよく知るために……

チエコウイン その次は……？

コイシ ご家族のことをよく知るために……

母親 えーッ、まさか、私のこともストーキングを……！

チエコウイン 何云うてはりますねん、ド厚かましい……

母親 こう見えても昔は職場の花だったんですからね。ねえ、お父さん……

父親 知らんがな、そないなこと……

チエコウイン 今の話をしてますねんで……

母親 あーら、今だって、それほど棄てたもんじゃ……

チエコウイン 棄てる棄てるッ、普通ゴミでも資源ゴミでも粗大ゴミでも、水・土、隔週金曜、隔週火曜、いつかて棄てるッ……

母親 まあ、失敬なッ。大体、隔週火曜は、粗大ゴミじゃなくって、容器包装プラスチックの日よッ……!!

マリ まあまあ、お母さんも、おばさんも……

コイシ それに、容器包装プラスチックの日は、隔週火曜ではなく、隔週月曜なのです……

母親 あ、確かに……

チエコウイン ゴミ収集日程にまで詳しいとはッ……!!

母親 とは……?

チエコウイン ストーカーの基本テクの一つですよ、ゴミ漁りッ……!!

三人 えーッ……!!

母親 あゝ……!!

父親 どうした……?

母親 この前、プラスチック・パックを普通ゴミで出しちゃったのよ……

チエコウイン 奥さん、問題にするゴミが違いますやろ、分別ぐらい構めへ

んがな……!!

父親 いや、アカンやろ……

コイシ 兎に角、ゴミを出すときは、慎重に……

父親 お前が云うな……!!

チエコウイン そんなで、あんた、一体何を発見して家へ持って帰ってあんなこ

としたりそんなことしたりしたんやッ……?

母親 チエコウインさん、落ち着いて落ち着いて……

コイシ いえ、僕は、ゴミを漁ったりはしていないのです……

チエコウイン じゃあ、何でゴミ収集日に詳しいの? あんた、この辺の住人

……?

コイシ いえ、違うのです。ですが、ゴミ収集日については、この家のカレン
ダーに印が付いていたので……

チエコウイン あゝ、何て小市民臭いことをッ……

母親 だって、小市民だもの……

父親 大体、何で、我が家のことをよく知りたいねん……?

コイシ それが、マリさんとお付き合いできる近道だと……

チエコウイン 何でそうなるのさ……?

父親 ちゃんと順序立てゝ話さんかいな

一同、こゝに到って漸く坐わり込み、各々身を落ち着ける。

コイシ 僕が最初にマリさんに出会ったのは、半年程前のヨツヤ駅のホームでした……

チエコウイン 何や、アキハバラやないんかいな、オタクいうたらアキハバラやろうに……

コイシ 晩秋のホームには枯れ葉が舞い散り、ふとシャンソンの一節《ひとふし》が口をついてしまうような曇り空の日でした……

チエコウイン オタクがシャンソンなんか知ってるはずがないッ。歌うんなら、アニソンやろアニソンッ……!

コイシ 何がなしやるせない魂を抱いて、舞い散る枯れ葉の一片の行方を追っていた僕の眼に、黒いコートに赤いマフラーの若い女性の姿が映りました……

チエコウイン オタクの癖に、小洒落たこと云うてんやないで……!

コイシ 灰色の空気に覆われた駅の構内で、その赤いマフラーの女性の一角だけが唯一彩りを持ち、恰も、マリー・ローランサンの小品を見るようでした……

チエコウイン オタクが「赤いマフラー」いうたら、ローランサンやのうて、009やろッ。マリちゃんは003、フランソワーズ・アルヌールッ……!

コイシ いや、Françoise Amouli 《フランソワーズ・アルヌール》といえば、矢張り、一九五五年、Jean Gabin 《ジャン・ギャバン》と共演した、Henri Verneuil

《アンリ・ヴェルヌイユ》監督の「ヘッドライト」、原題 Des gens sans importance

《デ・ジャン・サン・ザンポルトانس》（ありふれた人々）でしょう……

チエコウイン せやから、オタクの癖に五〇年代のフランス映画語るなッ……!

コイシ 次の瞬間、僕はもう、ソウブ線のホームから、彼女の立つチュウオウ線のホームへと駆けだしていたのです……

チエコウイン ほーら、矢っ張りこいつ、アキハバラ行くつもりやったんやッ……!

母親 チエコウインさんてば、そんな、勝ち誇ったように……

チエコウイン 何や、矢っ張り「ときめきメモリアル3」約束のあの場所です〜
買いに行ったんか……??

コイシ いや、違います……

チエコウイン 判った、エロゲーやなエロゲー……!

コイシ いえ、そうではないのですが。ところで、003の声優、杉山佳寿子は「うる星やつら」の「テンちゃん」も有名ですが、「科学忍者隊ガッチャマン」で「白鳥のジュン」やってたって、ご存じでしたか……??

チエコウイン オタクやッ、立派なオタクやッ……!

コイシ そう、それが、僕のマリさんとの出会いでした。その日、僕はマリさんの後を尾行し、この家にお住まいであることを突き止めました。それからの日々、僕はこの付近に朝からやってきて、マリさんの行動を密かに見守りました……

チエコウイン それじゃ、ストーカーやないの……！

母親 だから、ストーカーなんだって……

コイシ 最初の一週間で、マリさんの行動パターンは、概ね把握できました……

マリ まさか、バイト先にも……？

コイシ はい。バイト先であるシンジユクのレストランには、幾度か客として通いました。が、そこは、定職のない僕の経済状態では、気安く通うわけにはいかず、また、頻繁に通うと、顔を覚えられてしまう惧れもありました……

マリ 知らなかった……

チエコウイン でも、付き合いたいんやろ？ まず、知り合いになるんが普通やないの……

コイシ はい。ですが、僕には、まだまだ調べなくてはならないことが色々ありました。それを調べ終わるまでは、マリさんに顔を憶えられてはならないのです……

父親 他に何を調べとったんや……？

コイシ まず、交際相手が居るかどうかということでした……

チエコウイン ナルホド……

コイシ 女子大生にもなると、高い確率で交際相手が存在します。二週間程調査してみて、マリさんには、それが存在しないように思われました。ですが、もしかすると遠距離恋愛かも知れず、また、交際相手が短期間海外に滞在しているという可能性も払拭できませんでしたので、調査には一ト月余りを要しました。その結果、僕にとって幸いなことに、マリさんには、現在、特定の交際相手が存在しないという結論を得るに到ったのです……

父親 ようし……！

母親 何が「ようし」よ……

チエコウイン まあまあ、父親ってのは、そういうもんです……

コイシ 次の課題は、如何にして知り合い、親密な関係になるか、ということでした……

チエコウイン 行動パターンを把握してんのやったら、簡単とちゃうの……？

コイシ 出会うのは簡単です。実際、昔の少女漫画のように、出会い頭にぶつかって知り合うというのはどうだろうと、実行に移し掛けたこともありまして……

チエコウイン 流石はオタク。けど、古い、古いわあ、そのパターン……

コイシ 然し乍ら、同じ学校に通うわけでもない僕には、その後の接触を保証する要素がありません。従って、その場限りの出会いになる可能性が高いと判断した僕は、出会い頭作戦等を封印し、最初の出会いでマリさんに強い好印象を与えることを目標に、もっとマリさんをよく知るべく努めたのです……

チエコウイン それで、ピッチングかいな……？

父親 ピッチングや、ピッチング……

コイシ マリさんの出身高校、中学、小学校、幼稚園、産まれた病院、要するにマリさんの生い立ちを悉く把握するには、並々ならぬ努力が必要でした。また、その一貫として、お父さんとお母さんについての知識を得るのも必要なことでした……

母親 矢っ張り、私のことまで（一寸嬉しい）……

チエコウイン 近所のおばちゃんのごときは……？

コイシ いや、それは別に……

チエコウイン ふんッ、詰めが甘いんだよッ、オタクの癖に……

コイシ その結果――

マリ わかったの、わたしのこと……

コイシ マリさん……

マリ もうやめてください……

チエコウイン セヤセヤ、オタクは大人しう、家でエロゲーやっとならえッ

ねん……

マリ そんなことして、わたしのなにがわかるっていうんですか……

コイシ 生年月日、血液型、親しい友人、大切なぬいぐるみ、好きな食べ物、好きな本、好きな漫画、好きな映画、好きな歌手、好きな力士……

マリ そんなことで、わたしがわかるっていうんですか……

コイシ ……

マリ そんなので、わたしをわかった気になんか、ならないでください……

コイシ ……

マリ ……

コイシ ですが、僕は判ったのです……

マリ え……

コイシ マリさんが、今のまゝでは、幸福ではないということ……

父親 どういうことや……？

チエコウイン タワケたこと云うてんやないで、オタク風情《ふぜい》が……！
コイシ 僕は考えました、マリさんが問題を抱えている以上、僕の方に愛情を注ぐ余裕はないだろう、と。ですから、まず、マリさんの問題を解決するの
が先決だ、と……

マリ なんですか、わたしの問題って……

コイシ それは、ご家族のことです……

マリ なんのことですか……

コイシ そう、マリさんはご存じなかったのです……

父親 おいッ……！

チエコウイン 何よ何よ何なのよッ……？

コイシ その問題を解決するためにも、僕は、もっと調査をする必要があるの
です……

チエコウイン だから、何、勿体ぶってんねんな、オタクの癖にッ。(コイシ
が手にしている『星の神話』を指して) 大体、何で、調査すんにそんな本
が必要あんのさ……！

コイシ 皆さん、アルクトウルスという星をご存じですか……

マリ 知ってる。さっき、それで読んだから……

コイシ 牛飼い座の α 星、名前の意味は「熊の番人」。一・二等星、実視等級

マイナス〇・〇等、表面温度四三〇〇K《ケルビン》、距離およそ三七光年、
太陽系からの相対速度・秒速一二七km、質量は太陽とほぼ同じだが、直径
は太陽の約二四倍、明るさは約三〇〇〇倍の赤色巨星……

チエコウイン で、それが……？

コイシ この星は、別名を「ヨブの星」と呼ばれているのです……

父親 『よだかの星』やったら、読んだことあるで……

母親 お父さんって、結構読書家だったのね……

父親 いや、そういうわけでも……

チエコウイン いちやいちやしないな、こないな時に、いちやいちや……！

コイシ では皆さんは、旧約聖書の「ヨブ記」をご存じでしょうか……(ト云
いつ、どこからか聖書を取り出してみせる)

チエコウイン アッ、オタクやオタクやと思わせといて、実は、宗教勧誘員や
つたんかッ……！

母親 その、ウチは仏教徒ですから……

父親 でも、お母さん、ミッシヨン系の学校出てるんとちごたっけ……？

母親 あ、けど、私の母校は、カタリ派だから……

コイシ 旧約聖書の中で星について語られる箇所は、数箇所しかないのですが、アルクトウルスはその中の星の一つで、「ヨブ記」に現われるのです……マリ それで、「ヨブの星」……

コイシ はい。「ヨブ記」とは、こんな話です。昔、ウツの地にヨブという心正しく敬虔な人が住んでおりました。ヨブは、七人の息子と三人の娘に恵まれ、多くの財産を持ち、この地方では一番の富豪でした。ところが或る日、神の子らが主の前に集ったとき、サタンもやってきて仲間に加わりました。主はサタンに眼を留められて、「お前はどこから来たのか」と問われました。

するとサタンは「地上を經巡ってきたところですよ」と答えましたので、主は「では、我が僕へしもべヨブを見たであろう。彼のように立派で敬虔な者は他におるまい」と自慢なさいました。するとサタンは「ならば、ヨブの財産を打ちこぼし下さい。きっと、神を呪うようになりますから」と申しましたので、主は、ヨブの財産をサタンに任せて、子供達も家畜も使用人も、全て奪っておしまいになりました……

チエコウイン 何ちゆうことをすんねんな……

コイシ ですが、ヨブは神を敬う心を失いませんでした。また或る日、神の子らが主の前に集ったとき、サタンもやってきて仲間に加わりました。主はサタンに眼を留められて、「お前はどこから来たのか」と問われました。する

とサタンは「地上を經巡ってきたところですよ」と答えましたので、主は「では、我が僕へしもべヨブを見たであろう。彼は依然として立派で敬虔なまゝだ」と申されました……

チエコウイン よう云うわ、そないなこと……

コイシ するとサタンは「ならば、ヨブの身に害をお与え下さい。きっと、神を呪うようになりますから」と申しましたので、主は、ヨブの身にサタンに任せて、身に酷い皮膚病になさってしまいました……

チエコウイン ムゴい、ムゴすぎる……!

コイシ ですが、ヨブは神を敬う心を失いませんでした。そんな彼を見て、彼の妻は、神を呪えと呆れ、三人の友人は、悔い改めよと進言するのです。流石のヨブも、心動き、神に対して、どうして何も答えて下さらないのかと愚痴をこぼします……

チエコウイン そらそやろ……

コイシ すると、神は、そのもの凄く偉大なお力をお示しになり、星々をはじめとして、森羅万象悉く神の御技へみわざによることをヨブに認めさせたのです。その後、ヨブの病を治し、財産を元の二倍にして与え、子供達も元通り七男三女をお与えになりました。因みに、三人の娘達は無茶苦茶美人だったそうです……

チエコウイン そんなことまで書いてあんの……？
コイシ さあ、どうです……

チエコウイン どうです、つて……

コイシ 普通に生活していても、災難は襲ってくるのです……

チエコウイン 愈々《いよいよ》勧誘やな……

コイシ いえ、寧《むし》ろ、ヨブは知らぬ間に不幸に陥っていたと云えるで
しょう……

チエコウイン それで、聖書を買えとか云うんとちやうやろな……

コイシ そして、それは、悔い改めるべき性質のものではないのです……

チエコウイン どっちかというと、新興宗教……？

コイシ 僕は、マリさん達を、不幸から救いたいのです……！

一同 ……

父親 えゝ加減にせえよッ、お前なんか何が判るいうねんッ……！

父親、コイシに掴み掛かろうとする。周章てゝ止めに這入る母親と
マリ。チエコウインさんは、コイシの背後に回り込み、コイシの腕
を持ち上げて、反撃体制を取らせたりする。

ト、何やら怪しげな音と共に、照明も不可思議に変化して、スモー
クが溢れ、閃光が走り、下手の襖が開いて、異星人が出てくる。

異星人 ぴよ、ぷ、ぽ、ぺ、ぴゃ、ぽー……

チエコウイン 何や何や何やッ……？

コイシ い、異星人ですか……？

チエコウイン 何とかするんや、特撮マニアやろッ……！（ト、コイシを盾に
して、背後に隠れる）

コイシ いや、別に、マニアでは……

母親 チエコウインさん、それ、隠れ切れてませんよ……

マリ （異星人からお弁当の包みを受け取り、少し振ってみて）あ、ぜんぶ食
べたんだ。おいしかった……？

異星人 ぶ、ば……？

マリ うーん、やつぱ、通じないか……

コイシ ま、マリさん……？

マリ あ、だいじょうぶ、この子、危害は加えないから……

チエコウイン マリちゃん、大丈夫って……

父親 らしいわ……

チエコウイン ご主人まで……

母親 あーあ、バレちゃった……

チエコウイン てことは、何、異星人とお知り合い……？

母親 いや、別に、そういうわけじゃ……

マリ さっき、ね。急にこの部屋に……

コイシ まさか、異星人のストーカーではないでしょうね……！

マリ たぶん、ちがうとおもうけど……

チエコウイン 通報や通報ッ……！（ト、駆け出そうとする）

マリ 待って……！

チエコウイン せやかて、マリちゃん……

マリ ほら、ちっとも危険じゃないんだから。巨大生物とかといっしょにしな

いで……

異星人 ぴっぴっぴっ、ぷー……

父親 けど、何て云うてんのか……

母親 コミュニケーションが取れないんじゃないか……

マリとれるよ、ほら……（ト、又しても手話で「私はあなたを愛しています」）

異星人 ぱびばぼ……（真似をする）

マリ ほらね……

チエコウイン で、何て云ってるの……？

マリ 「私は、あなたを、愛しています」……

コイシ 矢っ張り、愛してるのですか……！

マリ いや、べつに、そういうわけじゃ……

コイシ でも、今、愛してるって……

異星人 ぴよびやびゆ……（手話）

コイシ ほらあ……！

父親 いや、コイシ君、愛というものは、異性愛だけとは限らへん。人類愛い

うもんかであるんや。連帯・愛・平和、あゝ Love & Peace ……！

母親 お父さん、又、六十年代に戻ってますよ……

チエコウイン 大体、人類やないでしょ人類や……！

父親 いやあ、お父さん、本質的にロマンチストやから、人類を越えた愛とか

にも弱くって……

コイシ あ、星が異なるので「異星愛」……

一同 （コイシを袋叩き）……

チエコウイン （コイシに）あんた、全てを神が造りたもうたんやったら、異

星人も造ったんやろ？ 神さんやったら、どないすんねん……？

コイシ いや、僕は別にクリスチャンではありませんから……

チエコウイン 何や、パチもんかい……！
一同 (再びコイシを袋叩き) ……

父親 けど、一体、どうやってコミュニケーションを取ったらえんやろ……
異星人 ぴばぷびやぼ、ぷー…… (ト、コイシの脇に落ちていた『星の神話』を指さす)

父親 何や何や……？

マリ あの本……

異星人 ぽぷびゆ、へばぷ…… (ト、『星の神話』に近寄ると、拾い上げ、頁をめくり、一点を指さす)

母親 指さした……

マリ (近寄って、覗き込み) アルクトウルスだ……

コイシ・父親・母親・チエコウイン アルクトウルス……！

コイシ (ハタと膝を打ち) そうだ！ (ト、立ち上がると、戸棚の抽出から紙とフェルトペンを取り出し) 一九七二年、七三年に打ち上げられた惑星探査機パイオニア一〇号と一一号は、人類史上初めて太陽系の外まで航行するため、存在するかも知れない地球外知的生命体に向けたメッセージを彫り込んだ、金メッキのアルミニウム板を、胴体に装着していました。つまり、絵

ですよ…… (ト、及び腰で異星人に近付き、紙とペンを渡し、『星の神話』の該当頁を指し示す)

異星人 ぴ、ぷ、ぴ……？

コイシ (及び腰のジュエスチャーで、紙に描くよう指示する) ……

異星人 ぷ、ぼ…… (紙とペンを受け取る)

チエコウイン おゝ……！

異星人 ぽ、びや…… (ト、紙を丸め、コイシの頭を叩く)

コイシ おいッ……

父親 矢っ張りな……

マリ 冗談好きなんだってば……

父親 ほんまは判ってんのちゃうか……？

コイシ (再び、ジュエスチャー) ……

異星人 び、ぼぼぼ、へぷー…… (卓袱台の上に紙を置き、何やら描き出す)

母親 かいてるかいてる……

父親 この円は……

コイシ 惑星の軌道ですよ……

チエコウイン ほな、これ、惑星……？

マリ この子の星……？

異星人 ぷびよぴやぽぺぽば……

コイシ 恐らくそうでしょう。同じ牛飼座のα星には惑星の存在が確認されていますが、彼女は、α星アルクトウルクスの周囲をめぐる未知の惑星から来たのですよ……

チエコウイン この子、アルクトウルクス星人やったんか……

コイシ いえ、我々が「太陽人」ではなく「地球人」であるように、正確には、彼女も、「アルクトウルクス系惑星人」と呼ぶべきです……

チエコウイン しちめんどくさい名前やな。こゝは一つ、簡単に「アルちゃん」
いうことで……

コイシ それは安直に過ぎるのでは……

異星人 びよぶ……

チエコウイン ほら、この子も喜んでるし。なあ、アールちゃん……

異星人 びよぶ……

母親 そんな、セキセイインコじゃあるまいし……

異星人 びよぶ……

マリ もしかして、なんか伝えたいのかも……

チエコウイン せやから、喜びを……

異星人 びよぶ…… (ト、コイシの聖書を指さす)

マリ 聖書……？

チエコウイン 今度は何を示そういうんやろ……？

マリ コイシさん、それ…… (ト、聖書を示す)

コイシ これ……？

マリ はやく……！

コイシ あ、はい…… (聖書をマリに渡す)

マリ (異星人に) ね、これでしょ……？

異星人 びよぶびよぶ……

マリ これを、どうすればいいの……？

異星人 ぽば、ぴー……

マリ あゝ、わからん……

コイシ マリさん、それ、異星人に渡して渡して……

マリ そっか。ハイ…… (ト、聖書を差し出す)

異星人 (受け取って) びよば、ぽ、ぽ、ぽ……

一同 (注目) で……？

途端に遠方で鳴り響くサイレン。それをきっかけに、あちこちで鳴り続け始める。

父親 火事やろか……？

マリ これ、巨大生物出現の知らせじゃなかったっけ……

母親 ニュース、ニュース。マリ、テレビつけて……

マリ (リモコンを取り、スイッチを入れる) ……

ト、客席側にあるはずのテレビからニュースの音声流れ出す。
画面に見入る人々。

アナウンサーの声 こゝで、巨大生物関連のニュースをお伝えします。昨夜未明から行方の判らなくなっていた巨大生物が、先ほど、サイタマ県東部のツルガシマ市に現われました……

父親 ということは、ハチコウ線に乗ってたんやろか……

マリ 電車なんか使うわけないでしょ……

アナウンサーの声 昨夜未明、イナギ市近郊で、科学特別警備隊および巨人の防衛作戦の結果、クワカワ付近の地中に逃げ込んだ巨大生物は、その後の活動が観測されていませんでしたが、つい先ほど、サイタマ県東部のツルガシ

マ市に現われたと付近住民からの通報があり、現在、科学特別警備隊および陸上自衛隊、埼玉県警機動隊が、それぞれ現場に向かっている模様です……
母親 まあ、これで、この辺は安心ね……

父親 あ、もしかして、今から出社せえいうことになるかもしれへん……

母親 その時は、お弁当、コンビニか外食でお願いしますね……

父親 うん…… (一寸哀しい)

チエコウイン よっしゃ！ こないしてはいられへん……！

やにわに立ち上がると、上手から飛び出してゆくチエコウインさん。
見送る人々。

コイシ いつも、あゝなんですか、あの人……？

父親・母親・マリ (深く項突く) ……

アナウンサーの声 たゞ今這入ったニュースによりますと、サイタマ県東部への巨大生物出現に伴い、出現地のツルガシマ市に避難命令が、周辺地域の、サカド、カワゴエ、ヒダカ、サヤマの各市に外出禁止令が発令されました。繰り返します。巨大生物の出現に伴い、ツルガシマ市に避難命令が、サカド、カワゴエ、ヒダカ、サヤマの各市に外出禁止令が発令されました……

母親 さてと、そろそろお昼の仕度ね……

父親 おいおい、こんな状況でお昼かいな。どないすんねん、こいつら……(ト、異星人とコイシ指す)

母親 あら、だって、異星人だってストーカーだって、お腹はすぐでしょ……？

コイシ はい、確かにすきます……

異星人 ぴぷー……

父親 だって、こいつ、さっきお弁当食べたところやで……

マリ 異星人なんだから、地球人とおんなじ感覚でお腹がすぐとはかぎらないと思うな……

コイシ そうですよ！ 僕はマリさんを全面的に支持します……！

父親 うーん、お父さん、本質的に「食事こそ家族の基本」主義者やからなあ……

コイシ 革命的食事主義ですね……

父親 やかましッ……！

母親 まあ、何と云っても、お母さんが食べたいからなんだけどね……

コイシ それは些《いさゝ》か利己的ではありませんか……？

母親 ほら、あなたも聖書持ってたくらいだからご存じでしょうけど、「あなたの隣人を、あなた自身のように愛しなさい」って言葉、何回も出てくるでしょ……？

コイシ はあ……

母親 つまり、私が空腹の時には、他人も空腹と思えってことでしょ……？

コイシ うーん、そうなんでしょうか……

母親 あ、マリ、手伝って……

マリ うん、いゝけど……

母親 何……？

マリ (テレビの画面を指さし) これって、ネヅさん家《ち》だよ……？

父親 ネヅさんて、三丁目の……？

母親 どれどれ……あらま、ほんとに、離れがべっちゃんこ……

マリ これ、ニュースの続きなんだけど……

父親 なるほど……

マリ でも、生中継みたい……

アナウンサーの声 こちらが、昨夜、巨大生物と、科学特別警備隊との戦闘のあったイナギ市郊外の住宅地です。御覧のように、生々しい戦闘の傷跡が、あちこちに残されています……

母親 まあ、あれ、ヤナカさんとこ……
マリ あ、ニッポリさんとこだ……
父親 何か、ニュースいうより朝のワイドショーみたいやなあ……
母親 でも、どうして、この辺が映ってんのかしら……？
アナウンサーの声 実は、昨夜は巨大生物が現われたこの街に、今日は異星人
が現われたとの情報が寄せられたのです……
一同 ……！（異星人の方を見る）
異星人 ぴぴやぷゆ……？
父親 （画面を指し）あ、あれ——
一同 チエコウインさんだ………！

4 兵士 (les soldats)

再び、巨大なテレビの枠が現われ、その中で番組が始まる。

アナウンサー こちらが、異星人を目撃なさったというご町内の方です……
チエコウイン あ、どうも……

アナウンサー お名前をどうぞ……
チエコウイン チエコウインです……
アナウンサー チエコウインさんがご覧になったのは……
チエコウイン 異星人です……
アナウンサー それは、どのような……
チエコウイン （恰好を身振りで示す）こんな、こんな、こんな感じの……
アナウンサー 人型の異星人ですね……
チエコウイン えゝ、えゝ、人型ですわ。猿型とか蟬型とか山椒魚型とかやお
まへん……

母親 チエコウインさんてば、矢つ張り……
チエコウイン まあ、メトロン星人みたいに、下町の安アパートをアジトにし
アナウンサー あゝ、あそこですか。普通の民家ですね……
コイシ あッ、この家ですよ………！
父親 人ん家をメトロン星人のアジトと並べるとは、失敬千万な……
アナウンサー それでは、このお宅にアポ無し取材を敢行してみましよう………！

父親 アポ無し取材……？

アナウンサー それでは現場の――

チエコウイン ほな、行きまひよか……（ト、アナウンサーの腕を引っ掴む）

アナウンサー え？ あ、でも、こゝ、スタジオ……

チエコウイン スタジオも薄塩もあるかいな。さッ……！

ト、テレビの枠を乗り越えて、外へ出てくる二人。

チエコウイン ほら、着きましたで……

アナウンサー いやあ、便利ですねえ。まるで、ドラえものの「どこでもドア」
みたいですねえ……！

チエコウイン （キッと睨んで）誰が「ドラえもん」やて……？

アナウンサー いえ、別に、そんなこと、ちつとも……

父親 こっち来よるで……

マリ この子、隠さなくっちゃ……！

父親 ほな、又、襖の向こうに……

母親 駄目よ、向こうにはチエコウインさんがついてるのよ……

マリ この子が悪い異星人じゃないってことを、テレビのまえで証明してみせ
たら……

父親 世間じゃ、異星人いうたら悪モンやと相場が決まってる。偏見の根いう
んは断ちがたいもんや……

マリ じゃあ、どうすれば……

コイシ お父さん……

父親 ストーカーの父親に成った憶えはない……！

母親 まあまあ、この人、根は真面目そうだし……

コイシ 有り難うございます、お母さん……

母親 オタクの母親に成った憶えはない……！

マリ まあまあ……

コイシ 「一点突破、全面展開」ですよ……！

父親 うーむ、そこはかとなく懐かしい六十年代の響き……

マリ で、どうするの……？

コイシ 逃がすんです……！

父親 どうやって……？

コイシ 皆さんが、チエコウインさん達と立ち話もしくは押し問答などしてい
るうちに、裏口から……

母親 裏口なんかいいわよ……

コイシ では、玄関から堂々と……

マリ だって、表にはチエコウインさんとテレビ・クルーが……

コイシ 変装させるのです……

父親 変装だあ……？

コイシ だって、お父さんはお上手ですから……！

父親 だから「お父さん」って呼ぶなあッ……！

マリ 上手って、なにが……？

コイシ 変装に決まってるじゃありませんか……

母親 何云ってるの、変装なんかしてないでしょ……

コイシ いや、外見ではありませんよ……

マリ は……？

父親 訳の判らんこと云いよって、お前もコイツ（ト、異星人を指す）と一緒に、とつと出てけ……！（ト、コイシの襟元を掴むと、上手に引っ張ってゆく）

コイシ 暴力反対……！！

父親 黙れ、軟弱日和見主義者……！！

マリ ちよつと、内輪もめしてる場合じゃないでしょ……

父親 いや別に、内ゲバやなくなつて、チヨイと反動分子の粛清をば……

母親 いつからストーリーカーが内輪になったの……？

コイシ そうです、我々の目標は、第一にこの家庭の防衛にあるのです……

父親 せやから、お前は我が家の一員やない……！！

マリ お父さん、もう、来ちやうよ、チエコウインさんたち……

父親 むう。しゃあない。マリ、異星人を二階へ。（コイシに）お前は、チエコウインさんの足止めや……！！

コイシ いや、あの人は一寸……

マリ （異星人に）さ、立って……

異星人 （ずっと聖書を読みふけている）……

マリ ほら、そんなの読んで……（異星人の腕を引っ張る）

異星人 （立ち上がり）びかり、あれ……

一同 ……！！

マリ しゃべった……

母親 「創世記」だわ……

父親 今は、そんなことどうでもええ。早よ……！！

マリ、聖書を持ったままの異星人を強引に引き立て、下手の襖の向こうに連れてゆく。

コイシ あ、僕の――

父親 ごちゃごちゃ云うてんと、早よ玄関行ってこい……………！

父親はコイシを強引に引き立て、上手の襖の向こうに押し遣る。

母親 これから、どうするんです……………？

父親 平常心や平常心……………（卓袱台の脇に坐わり込む）

玄関の方で、コイシとチエコウインの遣り取りが始まったらしく、何やら音がする。

母親 何か、想い出すわね……………

父親 ……

母親 何となく似てない？ あの日に……………

父親 似てへんわ、アホらしい……………

母親 そうかしら……………

父親 決まってるやないか……………

母親 あの日も、こうやってテレビを見てたのよ、海に落ちた飛行機から……………

父親 それがどないした……………

母親 あの日、一九八二年二月、浅間山荘事件から十年……………

父親 それとこれとは別や……………

母親 だからって、あの日のことは夢じゃなくて、現実なのよ……………

父親 せやから、どないや云うねん。俺達の日常に変化はあれへん。俺達はこ

れまでもずっと夫婦やったし、これからもずっと夫婦や……………

母親 そして、マリの両親ね……………

父親 当たり前やないか……………

母親 あのストーカーね……………

父親 あんな奴に、何が判るいうねん……………

母親 ……

父親 ……

母親 えゝ、そうね……………

父親 （自分に云い聞かすように） そうや……………

ところへ、遂にコイシは突破されたく、上手の襖がガバと開き、
チエコウインさんがアナウンサーを従えて這入ってくる。

チエコウイン さあ、観念おしッ……………!

父親 出たな、ご近所スターリニスト……………!

アナウンサー あのー、カメラ入れていゝですよね……………

母親 あらま、カメラに写るの、私？ お化粧しなくつちや……………(ト、立ち上がり掛ける)

父親 コラコラコラ……………

アナウンサー あのー、カメラ……………

チエコウイン 異星人は、どこッ……………?

父親 出て行つたで……………

チエコウイン いつッ……………?

父親 さつき……………

チエコウイン どこからッ……………?

父親 裏口から……………

チエコウイン しまったッ……………!

アナウンサー えー、どうなつちやつたんですか……………?

チエコウイン 逃げられたあッ……………!

アナウンサー あ、ちよつと……………

身を翻《ひるがえ》すと、上手の襖から飛び出していく。周章で、
後を追っかけるアナウンサー。

母親 あ、騙された……………

父親 やれやれ……………

上手の襖から、よろよると現われるコイシ。

コイシ すいません、矢張り、あの人は手強くて……………

父親 まあ、えゝか、何とかなつたし……………

母親 そうかしら……………

ト、ドカドカと戻ってくるチエコウインさん。

チエコウイン この家に、裏口なんてあれへんかったやないのッ……………!

母親 ほーら……

父親 うーん……

アナウンサー あのー、こちらが、異星人とファースト・コンタクト、第一種
接近遭遇をなさったお家のご家族ですね……？

母親 あ、お化粧お化粧……

父親 せんでえ、ちゅうに……

アナウンサー えーと、こちらがご主人ですね……

父親 一応……

アナウンサー 失礼ですが、ご職業は……？

コイシ (すかさず) 会社員です……

父親 そうそう……

アナウンサー お年は……？

コイシ 五十一です……

父親 そうそう……

アナウンサー 好きなテレビ番組は……？

コイシ えーと、矢張り最近「プロジェクトX」ですけど――

父親 あ、今のウソ。我が家はNHK見てませんから……

チエコウイン あんたも何訊いてんねんなツ。異星人やろ、異星人。どこへ隠
した……？

母親 隠すなんて、そんなこと……

チエコウイン はーん、二階やな……

父親・母親 ギクツ……

チエコウイン さ、皆さん、二階ですよツ……！！

父親 (下手の襖から顔だけ出していたコイシを見付け) おいッ、そのスト
ーカー、何とかせえツ……！！

コイシ え、えーと……アッ、外の道路を、黒い鞆を抱えた永瀬正敏がッ……！！

チエコウイン ふん、その手は桑名の焼き蛤や……！！

コイシ じゃ、えーと、外の道路を、福建省製偽造一万円札入りの黒い鞆を抱
えた永瀬正敏がッ……！！

チエコウイン えーッ、どこどこどこ……？

又も飛び出してゆくチエコウインさん。

小さくガッツポーズをするコイシ。

父親・母親 やれやれ……

アナウンサー えーと、奥さんですか……？

母親 は、はい……

アナウンサー こちらにお住まいになって、何年ぐらいですか……？

母親 えーと……

コイシ 十五年です……

母親 そうそう……

アナウンサー ご親戚は……？

コイシ 故あって、疎遠にしています……

母親 そうそう……

アナウンサー えーと、こちらの方は？ 息子さんですか……？

父親 とんでもない……！

母親 赤の他人です……！

アナウンサー としては、妙にこちらのご家族のことにお詳しいですけど……？

母親 実は、娘のスト——

父親 (遮って) いやいやいやいや、単なるご近所の若い衆でして……

アナウンサー あー、では、この若い衆も異星人を目撃なさった……？

父親 一応……

アナウンサー 異星人がこちらに出現したのは、今朝のことだそうですが……？

母親 えゝ……

アナウンサー で、異星人は、現在……？

父親 いや、それが……

コイシ 逃げたのです……

アナウンサー えー、逃げちゃったんですか……？

父親 えゝ、まあ……

アナウンサー とか云って、実は、奥の部屋に潜んでたりして……

父親 えッ……

コイシ そ、そんなことはないのです！ この方々は、異星人を匿《かくま》
つたりはしないのです……！

アナウンサー いえ、別に、匿つてるとか、そんな風には……

父親 いや、勿論、逃げたのですよ、逃亡したのです……

アナウンサー なるほど。えーと、今回出現した異星人は人型だそうです、

姿形の詳細はどのような感じだったのでしょうか……？

父親 えーと、こう、普通の女の子みたいな外見で、頭の上に二本、角という

か触覚というか、アンテナ状のモノが……

アナウンサー へー、普通の女の子みたいな外見ですか……

コイシ えゝえゝ、そうなのです！ この方々は、ウソを吐《つ》いたりはしないのです……！！

アナウンサー いえ、別に、嘘をお吐きだとか、そんな風には……

父親 いや、勿論、誠実なる一市民として、嘘は申しません。税金もちゃんと納めてますし、電気代もガス代もNH……あ……

アナウンサー あのー、異星人は、何かを手にしていたというようなことはありませんか……？

父親 えーと、別に何も——あ、本を一冊……

アナウンサー 本を……？

父親 はあ、聖書なんですが……

アナウンサー 聖書って、あのバイブルですか？ どうしてまた、そんなものを……？

父親 えー、それが、実は、持ってたというか……

コイシ そうです、持ってきたのではなく、持ってたんです！ 二

十年前とは違って……！！

アナウンサー は？ 二十年前……？

父親 何云うてんねん、お前ッ……！！

コイシ あ、いや、その……

アナウンサー 二十年前にも、異星人が出現したのですか……？

父親 いやいやいやいや、何にもありませんでしたよ……

母親 大体、私達、こゝには住んでませんでしたから、二十年前なんか……

父親 そうそうそう……

コイシ そうですそうです、二十年前は、コウトウ区のアパートにいらっしやったんですよ、この方々は……

父親 お前、そないなことまで……

アナウンサー 兎に角、異星人は、聖書を持ってっってしまったと……

父親 そ、そういうことになりますな……

アナウンサー 何か残していったモノはありませんか……？

父親 いや、まあ、その、取り立てゝ……

コイシ えゝ、勿論、今回は、子供なんかは残していかなかったのです……！！

アナウンサー は、コドモ……？

父親 え、あ、い、いや、コロモ、衣ですよ、衣なんかはね、残していかにへんかったんです、こう、空から降りてきた天女が天羽衣《あまのはごろも》残してっただけにはね……（横目でコイシを睨み付ける）

アナウンサー あー、そうですか……

父親 そうですそうです。なあ、お母さん……

母親 え、え、そうですよ……

アナウンサー えー、ご家族は、ご主人と奥さんだけでですか……？

父親 いや、娘が一人……

アナウンサー お嬢さん、お姿が見えませんが、まさか……

母親 え、あ、一寸、お昼の支度を……

アナウンサー あー、そうでしたか、私、もしや異星人に連れ去れたりしたのではと……

父親 そ、そ、そないなつてたら、こないにお、お、お、おおチチついでられれますかいなカイナ……

母親 落ち着き方が無茶苦茶不自然ですよ……

アナウンサー あー、そうですね……

コイシ 勿論です、大体、マリさんは、今更、連れ去られるなんてことはないですよ……！

アナウンサー は……？

父親 ちょっと、コイシ君……！

コイシ あ、スイマセン！ マリさんは、慥《たし》かに、この方々のお嬢さんなので……！

アナウンサー いや、別に疑ったりしてませんが……

父親 当然です……

アナウンサー それとも何かご事情が……？

コイシ いえ、このご家庭には、異星人は訪れましたが、今回は、何も残さず去って行ったということなのです……！

アナウンサー 今回はって、矢っ張り前回もあつたんですか……？

父親 コイシッ……！

コイシ いや、ありませんよ、前回なんか……

父親 そうです……

アナウンサー 知らない間に来てたとか……？

父親 まさか……

アナウンサー 気配とか視線のようなものをお感じになったことは……？

父親 そんな、ストーリーカーやあるまいし……

コイシ でも、マリさんのことが気になる点では、似ていますけどね……！

父親 五月蠅《うるさ》いわッ……！

アナウンサー え、お嬢さんのことを狙ってるんですか、異星人は……？

父親 せやから、異星人やないんですって……

コイシ 勿論、幾らストーリーカーだって、立派な地球人ですよ……！

アナウンサー じゃ、お嬢さんは、ストーリーカーに狙われているんですか……？

コイシ 狙いませんよ、ストーカーは。何しろ、本当の親のような気持ちで陰から見守っているのですから……！

父親 そんなヤツが、不法侵入とかするか……？

コイシ 何しろ、マリさんの幸福のためなら、自分が犯罪者になることなど、毛ほども厭いませんよ……！

父親 本当の親とストーカーを一緒にするな……！

コイシ 本当の親であるということに対抗するには、それくらいの覚悟が必要なのです……！

アナウンサー 何かわかんないけど、ちよっとカンドーしました、今の言葉……！

父親 勝手なことぬかすな、この、ストーカー野郎……！

アナウンサー え、この方、ストーカーなんですか……？

コイシ こっそり見守る点では、本当の親と一緒にすよ……！

アナウンサー えー、本当の親御さんなんですか……？

父親 んなわけではないやろ……！

アナウンサー なら、どうして本当の親御さんが、こっそり見守るんです……？

父親 だから、そんなヤツはおれへんのですって……！

アナウンサー じゃあ、ストーカーはいなくて、本当の親御さんはいらっしやる……？

父親 何でやねん、逆やがな、おるのはストーカー……！

アナウンサー あー、それじゃ、本当の親御さんがいらっしやらない……？

父親 その通り……

母親 お父さん……！

父親 あ、いや……

コイシ お父さん、到頭告白して下さいましたね……！

アナウンサー えー、それって、どういうことですか……？

コイシ つまり、嘗ても訪れたものが居たって訳ですよ……！

アナウンサー かつてもって、それ、矢っ張り異星人でしょう……！

父親 異星人が来たのはさっきの話や、二十年前には誰も来てへん……！

アナウンサー 何かあったんですか、二十年前に……？

父親 あ、いや、別にそういう訳では……

アナウンサー 今回の巨大生物が、この附近に出現したことで、何か関係があったりしませんか……？

コイシ それは、多分、ないと思うのですが……

父親 お前が答えるなッ……！

アナウンサー　じゃ、誰が来たんです、二十年前……？
父親　そ、それは……

ト、ガラリと下手の襖が開くと、マリが立っている。
思わず凍り付く父親と母親。

父親　マリ……

コイシ　マリさん……

マリ　……

母親　えーと、お腹空いたんでしょ、支度するわね……。あ、マリも手伝って

マリ　ずっといたの、襖の裏に……

母親　マリ、それじゃ――

父親　いや、何にもない、何にもなかったんや。何にもないから、何にもない
って云うただけのことや……

マリ　お父さん、お母さん……

父親　……

母親　……

マリ　あなたたちは、ほんとうは何者なの……

母親　マリ……

マリ　……

父親　それは……

母親　……

マリ　なに……

父親　マリのお父さんとお母さんやないか……

マリ　嘘……！

コイシ　お父さん、もう已^レや^レめにしましょう……！

父親　何やと……！

コイシ　真実の隠蔽は、矢張りマリさんを不幸にするのです……！

父親　お前にそんなことを云う資格があるんか……！

コイシ　何故ならそれが真実だからですよ！　隠された真実は明らかにされね
ばなりませんよ……！

父親　利いた風な口をきくんやないぞ……！

コイシ　ですが、僕は……

父親　この家から早く出て行けッ……！

コイシ　マリさんを幸せにするまで、僕は退く訳にはゆかないのですよ……！

マリ アルクトウルス……
一同 え……

マリ 牛飼い座の神話だよ……

母親 マリ……

マリ お父さんはどこかの神さま、お母さんはどこかの熊、ほんとうの家族は、

こゝにはいない……

母親 何云ってんの、マリ……

父親 そや、お父さんはこゝ、お母さんはそこにおるやないか……

マリ もう、いゝのよ……

父親 マリ……

コイシ マリさん……

マリ なにが真実よ……

コイシ ですが、真実を知らねば、正しく生きることは——

マリ (父親と母親に) ねえ、嘘ついてたんでしょ……今まで……ずっと……

二十年間……

父親 訳があるんや、別に、騙そうと思てた訳や——

マリ どうして……

アナウンサー (カメラ目線で) さあ、大変なことになってきました、このご

家族、実は、本当の家族ではなかったのです……!

コイシ マリさん、僕がお話しします、二十年前、何があったかを……

父親 お前は——

マリ 話してください……

父親 マリ……

コイシ その昔、殆どどの学生達がデモと催涙弾と火炎瓶の日常から、麻雀と試験と就職の日常に移っていった後も尚、運動に身を投じたまゝの学生達がおりました。お父さんとお母さんも、そんな学生達でしたが、矢張り運動の場から去り、もう一方の日常の側に復帰したのです……

父親 何を云い出すんや……

コイシ そして、浅間山荘事件から十年、お二人の暮らすコウトウ区のアパートに、赤ん坊を抱いた一人の女性が訪れました。彼女は、嘗ての同志でした……

父親・母親 ……

コイシ そして彼女は、当時も、運動を棄てゝはいませんでした。それどころか、非公然活動家として、運動の渦中に身を置いていたのです。そんな彼女が、何故、お二人の許を尋ねたのか……

父親 出鱈目や……

コイシ 出鱈目ではありません、真実です。彼女は、自分の出産したばかりの子供を、あなた方に預けたのです……

父親 えゝ加減にせえよ……

コイシ その時、あなた方が彼女に対し、運動から足を洗うように諭したか否か、僕には判りません。ですが、彼女は、再び現れることはなかった……

父親 そないな陳腐なツクリバナシ、誰が信じんねん、アホらしい……

コイシ いゝえ、これは真実なのですよ、マリさん。僕は、半年掛かりで、漸く、この真実に辿り着いたので……

マリ じゃあ、わたし、棄てられたの、お母さんに……

父親 ちゃうんや、マリ……

マリ 運動に邪魔だから？ どうして？ そんなにたいせつなものなの、運動つて……？

父親 せや……彼女にとってはな……

マリ じゃあ、どうして、あなたたちはやめたの……？

父親 それは……

マリ 運動をやめたことがうしろめたかったの？ 同志を助けることで、うしろめたさを和らげようっていうことなんじゃないの？ わたしは、その道具

だったんじゃないの……？

母親 マリ……！

父親 違うんや、マリ……

マリ じゃあ——

父親 これが、子供を育てることが、家族を営むことが、俺の運動やったんや。運動こそ、俺の日常、人生の意味なんや……

コイシ 運動は敗北したのですよ、お父さん。丁度あの当時、怪獣や宇宙人達がウルトラマンやウルトラセブンに敗北していったように。連帯と戦いの日常は、もはや日常ではないのです……

父親 今かて、巨大生物は毎日のように暴れとるやないか。それが日常なんや、いや、それを日常にせなあかんのや……

コイシ ですが……

父親 誰が何と云おうとも、俺はこの家を守る。この家こそが我々の砦なんや……！

マリ お父さん……

アナウンサー「えーと、何だかどうしてもキンプクしてる感じですが、こゝで、奥さんのコメントを取りたいと思います……」

コイシ（アナウンサーに）「あなた、少しは空気読みなさいよ……！」

アナウンサー「えー、でもでも……」

母親「皆さん、あなたには、私達の家庭に這入り込むことは許されせんよ……」

…

コイシ「何故ですか？」「汝の隣人を、汝自身の如く愛せ」、あなたの理想は他人を受け入れた筈です……！」

アナウンサー「あー、知ってますよ、それ、新約聖書ですよねー。こう見えても、ICU出てるんですよ、アイ・シー・ユー。つまり、ワタナベ・マリさんの後輩ってわけー——」

母親「聖家族を描いた絵と聞いて、あなたは何を思い出しますか……？」

アナウンサー「そりゃやっぱ、マリアとヨセフとイエスでしょ……」

母親「三人が揃った絵は、殆んどありません。何故なら、イエスはヨセフの実の子供ではないからです。私にとっては、アンナとヨアキムとマリアの三人こそが真の聖家族なのです……」

アナウンサー「誰ですか、それ……？」

コイシ「中世のヨーロッパでは、聖アンナと聖ヨアキムそして聖母マリアの聖家族像の方が、家族愛の普及に貢献したと云われています。なるほど、それで、マリという名前を……」

母親「汝の隣人を、汝自身の如く愛せ」。私は、家族を私自身のように愛しています……」

コイシ「ですが、聖書では、家族を優先的に愛する者は、キリスト者には相応しくない……」

母親「ですから、あなたは、子供を親に逆らわせる者、平和を乱しに来た者でなのです……」

アナウンサー「あー、それって、「マタイ伝」ですね……」

コイシ「お母さん、あなたの考え方は異端です……！」

母親「兎に角、皆さん、出て行って下さい、私達の家族を乱さないで下さい……」

…

マリ「お母さん……」

コイシ「マリさん、これが真実なのです。漸く、全てが明らかになりました……」

…

黙ってイ《たゝず》む一同。

間。

マリ だから……？

コイシ は……？

マリ 真実は明らかになったかもしれないけれど……

コイシ ……

マリ でも、じゃあ、わたしは、どうしたらいいんですか……？

コイシ ですから、より良く生きる道を選んで幸福になり、そして僕のを……

…

マリ 言語学で習いました、「ペテロ」は石、「パウロ」は小さいって意味なんです……

コイシ マリさん……？

マリ キリストが捕まったとき、みたびキリストを知らぬと嘘をついたペテロ、

回心の前はキリスト教の迫害者であったパウロ……

コイシ そんな、只の語呂合わせではありませんか……

マリ 最後には、ペテロもパウロも、皇帝ネロの迫害にあってローマで殉教したといわれてますよね……。ふたりとも自分が真実だと思うものに殉じたのです……

コイシ 一寸待って下さい……

マリ あなたは、真実の恐ろしさをわかってない……

コイシ ですが、真実なんですよ、真実から眼を逸らすことは——

マリ 真実のために失うものがあってもですか……

コイシ それは……

マリ 真実のせいで、わたしは、家族を……

マリ、奥に駆け込もうと、下手の襖に手を掛ける。

ト、光が不可思議に変化し、下手の襖が勝手に開くと、異星人が立っている。

アナウンサー あーッ、異星人々々々……！

異星人 水の間に、ひろがり、あれ。そしてそれが、水と水との間を分かっべし……

アナウンサー (母親に) あのー、どーゆー意味なんでしょう……？

母親 あなた、キリスト教系の学校出てんでしょうが……

アナウンサー キリスト教概論とか、よくサボってたもんで……

異星人 天の下の水はびと所に集まれ。そして乾いた場所の現わるべし。大地は、木、種持つ草、各々の実を付け種を生む樹木を地上にばやすべし。天のびろがりの中に、びかるものよ、あれ、びると夜とを分かつたために。そして、時期を、びびを、年々《としどし》を指し示す記《しるし》たるべし。またそれら、天のびろがりの中で灯りたれ、大地を照らすために……

異星人は、「創世記」を語り乍ら、部屋をゆつくりと回ると、マリの傍らにやってきて、そっと肩を抱く。

異星人 神はふたつの大きな灯りを造りたもうた、大きな方はびるを司るため、小さき方は夜を司るため。神はまた、ぼしぼしも造りたもうた。そしてそれらを天のびろがりの中に置きたもうた、大地を照らすため、びると夜を司るため、びかりと闇を分かつたため……

マリ あなた……

異星人 マリ、イタイ、マリ、ツライ……

マリ え……

コイシ こら、異星人、勝手なことを云うんじゃない……！

異星人 マリ、びとりぼっち……

母親 そんなことありません……！

異星人 マリ、ほんとうの自分、知りたい……

アナウンサー どういうことですか……？

異星人 みんな、何にも、ワカッテナイ……

アナウンサー 確かに判ってません……

父親 一緒にすんな……！

異星人 みんな、間違ってる、使い方……

母親 何の使い方……？

異星人 わたしも、天のびろがりの中から来た、大地を照らすため、びると夜を司るため、びかりと闇を分かつたため……

コイシ どういうことですか……！

異星人 マリ……

父親 マリから離れる……

マリ (父親達が近付こうとするのを制して) こないで……！

父親 マリ……

コイシ マリさん……

マリ だって、いまは、この子のことばのほうが、よくわかるもの……

ト、異星人、マリを抱くようにして、下手の襖から消え去る。
アツと叫んだ男達、襖を開けて追おうとするが、何故か襖はびくと
もしない。

コイシ 開きません……
父親 そんなアホな……
アナウンサー つつかい棒ですよ、きつと……
父親 そんなもんしたかて、（反対側を指し）こっちから開くやる……！
母親 マリは、私達のことを……

5 お墓(les tombes)

途端に、外が騒がしくなる。何やら大人数が集結した模様。
上手の襖が開いて、チエコウインさんが飛び込んでくる。

チエコウイン ジョブ星人は、どこやツ……！
母親 チエコウインさん……

チエコウイン 出てこい、ジョブ星人！ 聞こえてんのやったら、出てこんか
い……！

アナウンサー 何ですか、ジョブ星人って……？
チエコウイン アルクトウルス星系第三惑星ジョブ星からきた異星人のこつち
やがな……！

コイシ そんな名前だったのか……！
チエコウイン いや、ついさっき、科学特別警備隊が、アルクトウルスの英語
名 Job's Star に因《ちな》んで命名したんやけどな……

コイシ そんなら、呼んでも判らないでしょ……！
チエコウイン 何云うてんねんな、コミュニケーションは言葉やないがな、態
度でっせ態度ツ……！

アナウンサー へー、一寸感動しましたー……
父親 静かにせえ……！

チエコウイン （コイシに）どないしはったん……？
コイシ マリさんが、異星人と一緒に、二階に閉じ籠もったのです……！
チエコウイン えーッ……！

母親 すいません、一寸、今、取り込んでますんで……

チエコウイン 愈々《いよいよ》正体を現したな、ジョブ星人め。けど、こっ
ちには、科学特別警備隊と警視庁機動隊と自衛隊第1師団とマスコミと野次
馬が付いとんねんぞ……！

アナウンサー じゃあ、外でざわわしてんのが……？

チエコウイン その通り！ この町内は完全封鎖済み、蟻の這い出る隙もゴキ
ブリの這入り込む隙もなしや……！

コイシ 一寸待って下さい、マリさんが異星人と一緒に居るんですよ、そんな
ことして、もしものがあつたら……

チエコウイン そんなときや、そんなときや。心配せんだって、ちゃんとお墓の
一つくらい、国家予算で建てたるがな……

コイシ おいコラ、おばはんツ……！

父親・母親 チエコウインさんツ……！

アナウンサー えーと、ところで、そのジョブ星人って、何か、悪いことした
んですかー……？

チエコウイン 何云うてますねんな、異星人でっせ、何やコスプレみたいなか
ツコしてますねんで、「ぱ」とか「ぶ」とかしか云いませんねんで……

アナウンサー いや、さつきは、喋ってましたよ、ちゃんと……

チエコウイン え、ほんま……？

母親 喋れるようになったんです、さつき……

チエコウイン うーむ、短期間に地球語会話能力を身に着けるとは、流石は異

星人、アナドリがたーし……！

母親 そんな大層な……

チエコウイン これも、地球侵略計画の一環に違いなーし……！

アナウンサー でもー、わたしが見たところ、結構、友好的でしたよ……

チエコウイン 五月蠅いよ、この小娘が！ コミュニケーションは上辺やない
がな、恰好とか言葉とかのウワツラに騙されたらアカン……！

コイシ 云ってることが、さつきとアベコベですよ……

チエコウイン (袖をまくると、腕時計型通信装置に向かって) あー、こちら

チエコウイン、こちらチエコウイン、チーフ、こちらの交渉は難航してます
……

コイシ あんた、いつの間に、科学特別警備隊員に成ったんですか……！

チエコウイン (通信装置に) この家のお嬢さんが人質になっている模様。無

理はでけまへん……

コイシ 当然でしょう……！

チエコウイン (通信装置に) 取り敢えず、パラボラ光線砲でも用意しといて
下さい……

コイシ パラボラ光線砲って、「地球防衛軍」に出てきた「マーカライト・フ
アープ」みたいなヤツですか……？

チエコウイン (コイシの手を握り) あんたやったら、判ってくれると思てた
わ……

コイシ (チエコウインさんの手を振りほどき) 何に使うんですか、そんなも
ん……！

チエコウイン いや、防衛軍いうたら、パラボラ光線砲やろ、普通……

父親 そんなことより、この襖開けるのが先決やろ……！

チエコウイン え、襖……？

母親 開かないんですよ……

アナウンサー つっかい棒じゃないらしいですよ……

チエコウイン ジョブ星人め……！

コイシ アッ、二階でしたら、道路から梯子でアプローチできるのでは……

父親 それやッ……

チエコウイン よっしゃ、任せとき！ (通信機に向かって) チーフ、こちら

チエコウイン、二階にアプローチするため、梯子の用意をお願いします。ハ

イ。いや、高枝切り鋏は要りません！ (一同に) ほな、行きまっせ……！

アナウンサー おー……！

チエコウインを先頭に、一同、上手の襖から外へ出て行く。

同時に、巨大テレビ枠の手前が明るみ、マリと異星人が浮かび上が
る。詰まり、二階の部屋である。

異星人 マリ……

マリ ……

異星人 ダイジョブ……

マリ ……

異星人 オパナシ…… (ト、いつの間に来ってきたのか、『星の神話』を差し

出す)

マリ (『星の神話』に眼を落とす) ……？

異星人 オパナシ、する……

マリ もう、いゝの…… (ト云いつゝ、『星の神話』を受け取って、頁をめく
ってみる)

異星人 カリストー、大熊座、アルカス、小熊座……

マリ (『星の神話』の頁に眼を留める) 牛飼い座のアルカスって、小熊座に
もなってるんだ……

異星人 アルカス、アルカディアの一族の祖先、小熊の尻尾の先、ポラリス：
マリ 小熊座α星ポラリス……。北極星のことだ……。(読む)「アルカスの名前に由来するとされるアルカディアの土地は、ギリシア南部、ペロポネソス半島の山岳地帯であったが、ウエルギリウスの詩などに歌われ、牧歌的な理想郷の代名詞とされた」。……

異星人 アルカディア、おぼな畑、楽園……

マリ アルカスは、楽園をのこした……？

異星人 ポラリス、みんなの目印、アルクトウルスも……

マリ だから……？ だから、どうだっていうの……？ アルカスはお母さんを殺そうとしたのよ……。お父さんのことも知らなかったじゃない……。(本を閉じる)

異星人 だから、アルカスは、家族を、ふかく愛せた……

マリ え……

異星人 それでは鷺鳥はどこ行った？

葦のしげみに逃げてった。

それでは葦はどこにある？

娘がすっかり刈り取った。

それでは娘はどこ行った？
みんなお嫁に行きました。
コサックたちはどこ行った？
みな戦争に行きました……。(江川卓訳)

マリ それって……

異星人 コサックの子守歌です……

マリ あ、しゃべりかた……

異星人 マリ……

マリ はい……

異星人 あなたの鷺鳥は、どこに行ったのですか……？

マリ わたしの……鷺鳥は……

異星人 あなたが探したいのは、鷺鳥ですか……？

マリ え……

異星人 ほんとうに探しているのものは……？

マリ それは……

異星人 それは……？

マリ それは……アルカディアの……お花畑……

途端に、大音響と共に、不可思議な光。
マリと異星人の姿が消える。

ト、上手の襖から、チエコウインさんを先頭にした一同が、転がり
込んでくる。

チエコウイン ころら、ストーカート、二階の窓から這入れるとかぬかしやがっ
て、矢つ張り開けへんかったやないかッ……………!

アナウンサー しかも、何ですか、さっきの大音響。てっきり、爆発が起こっ
たもんだと……………

父親 ジョブ星人め……………!

母親 マリ……………

チエコウイン こうなつたら、米軍にも応援を……………!

コイシ いや、然し、有事法制はまだ……………

父親 安保反対ッ……………!

チエコウイン つべこべ云うヤツは、パラボラ光線砲の餌食にしたんぞ……………!

母親 (下手の襖を指し) 兎に角、こゝを開ける手段を……………

父親 何か、何かないんか……………

コイシ あッ、ピッキング……………!

チエコウイン それやッ……………!

父親 襖のどこに鍵穴があんねん……………!

アナウンサー もしかして、呪文とか……………

チエコウイン それやッ……………!

コイシ けど、どんな……………?

アナウンサー 普通なら「開けゴマ」ですよね……………

母親 普通じゃないでしょ、こゝは……………

父親 何か、手懸かりは……………

アナウンサー ジョブ星人だから……………

コイシ 「ヨブ記」……………?

チエコウイン 聖書や……………!

母親 でも、聖書は……………?

父親 ジョブ星人に持ってかれたまゝや……………

コイシ 僕の聖書……………

アナウンサー コイシさんの聖書……………

チエコウイン それで……………?

アナウンサー マリさんが連れてかれた……………

チエコウイン せやから……………?

アナウンサー 「コイシ・マリ」……。 「小さい石のマリ」でペテロとパウロとマリア……。英語にしたら、ピーターとポールとマリ……。Peter, Paul & Mary
……!

父親 「花はどこへ行った」……!

コイシ そうだったのか……!

チエコウイン 何が「そうだったのか」やツ……!

父親 呪文は「花はどこへ行った」や……!

チエコウイン 無茶苦茶ムリあるわツ、その展開ツ……!

アナウンサー ダメですか……!

チエコウイン 駄目も駄目、もう大駄目……!

コイシ チエコウインさん、科学特別警備隊は、ジョブ星人について、何か情報を入手してないんですか……??

チエコウイン よっしゃ。(袖をまくる。が、通信機がない) あーツ、通信機、

あれへん……!

母親 落としたんだ、さっき……

父親 肝腎の時に役に立たんやっちゃな……

コイシ テレビ、テレビの情報で、何か云ってないですか……??

アナウンサーがリモコンを拾い上げてスイッチを入れるが、点かない。
い。

アナウンサー あー、点きませんよ……!

父親 ジョブ星人の仕業か……

コイシ いや、何か、停電してるだけみたいですよ……

アナウンサー まさか、これで開いたりしませんよね……!

ト、下手の襖に向けてリモコンを押すと、襖が開く。

一同 開いた……!

異星人が出てくる。

異星人 それでは鷺鳥はどこ行った?

葦のしげみに逃げてった。

それでは葦はどこにある?

娘がすっかり刈り取った。

それでは娘はどこ行った？
みんなお嫁に行きました。
コサックたちはどこ行った？
みな戦争に行きました……

父親 それは……

コイシ 何ですか……？

父親 『静かなるドン』の子守歌や……

母親 どうしてジヨブ星人が……

父親 マリをどこへやった……！

異星人 それではマリはどこ行った……？

父親 まさか、お前……

異星人 安心して下さい……

父親 何やと……

異星人の背後から、マリが現れる。

母親 マリ……！

マリ 二階の押入にあったよ……（ト、手に持った『静かなるドン』を示す）

父親 そんなことより――

マリ コサックは、戦争から還ってきたんだよね……

父親 マリ……

マリ お父さん……

父親 ……！

マリ お母さん……

母親 マリ……

マリ わたしも……

コイシ 還ってきたんですね……！

マリ いゝえ……

コイシ ですが……

マリ （上を仰ぎ見て）北極星、北斗七星、ヨブの星……

一同 ……

マリ 秒速一二七kmで旅立ちます……

アナウンサー どこへ……？

マリ アルカディア……

父親 アルカディア……？

異星人 その前に……

チエコウイン ジョブ星人ッ、マリちゃんを洗脳しよったんとちゃうやろな…
…？

異星人 お父さん、お母さん、真実を…

父親 真実やと…？

異星人 そうです…

父親 これ以上、何を明かせて云うんや…

異星人 お父さんとお母さん自身のことです…

コイシ まだ、真実が…？

父親 ……

異星人 ……

マリ ……

母親 判りました…

父親 お前…

母親 だって…

父親 何でや…

母親 ずっと思ってたのよ…

父親 ……

母親 いつか、こんな日が来るって…

父親 そうか…

アナウンサー 何なんですか、真実って…？

母親 マリ、お父さんとお母さんはね、本当の夫婦じゃないの…

チエコウイン えーッ…！

アナウンサー (制して) シーッ…

チエコウイン じゃあ、一体…？

母親 同志なのよ…

コイシ 偽装結婚…！

チエコウイン ギョーケツコン…？

コイシ 活動家だったからですね…？

母親 そうです…

コイシ 三十年近くも…

母親 え…

コイシ 知らなかった、まさか、お父さんとお母さんが、偽装結婚だったとは

あッ…

チエコウイン 台詞の主がちやうやろ…！

コイシ 然し、僕は、随分調べたのですよ…！

チエコウイン 情熱の方向が間違うとんで、あんた…

母親 (マリに) 吃驚した……？
マリ うん……
母親 ごめんね……
マリ うゝん……
母親 怒らないの……？
マリ お母さん、いつてたじゃない、夫婦は所詮他人だ、つて……
母親 うん……
マリ 家族も、所詮、他人だもんね……
母親 けど……
マリ でも、だからこそ、ね……
母親 マリ……？
マリ アルカスだよ……
母親 アルカス……？
マリ アルカディア王家の祖先になった……
母親 アルカディアって……？
アナウンサー 何か判んないけど、メデタシメデタシですねー……！
チエコウイン そうか……？
コイシ 矢張り、真実が明らかに成ればこそその大団円ですよ……！

異星人 コイシさん、あなたの考え方も間違っています……
コイシ 真実を求めることの、どこが間違ってるんですか……？
異星人 あなたは、真実を求めるといふ大義名分のもとに、マリを苦しめまし
た……
コイシ 僕は、マリさんが幸福になるために、敢えて……
異星人 ヨブの三人の友人達と同じです……
コイシ 「ヨブ記」の……？
異星人 ヨブの苦しみに、その理由を探そうとした……
コイシ あ……
異星人 そのことで、ヨブの心をさらに苦しめた……
コイシ 僕が……マリさんを、不幸にしてみました……
異星人 けれど、一番大きな間違いは、物事の裏に真実が隠されていると思
込んだことです……
コイシ でも、真実は……
異星人 物事は隠し事などしません……
コイシ それは……
異星人 他人《びと》の中に何か隠されていると疑うのは、自分の中に他人
《びと》には知られない自分だけの世界を作り上げようとするからです……

コイシ ……

チエコウイン おたくや、矢っ張りおたくやったんや……

異星人 そんな人間は、結局、他人《びと》を愛することはなく、他人《びと》に愛されることもありません……

コイシ そんな……

異星人 あなたは、真実を求めたせいで、大切なもの——マリを失うのです……

…

チエコウイン あたり前田のクラツカーやな……

コイシ そんな……。マリさん……

マリ コイシさん、ごめんなさい……

コイシ 然し、真実が明らかになった今、再スタートを——

マリ でも、コイシさんには、少し感謝してます……

コイシ ならば——

チエコウイン 往生際の悪いやつちやな。とつとつ失せんかいッ……

コイシ 失敗です、僕の人生は失敗です……

チエコウイン とつとつに失敗しとるがな……

コイシ 僕はもう二度と皆さんの前に姿を現すことはないでしょう……

チエコウイン 当然やね、フンッ……

項垂れたコイシ、蹣跚《よろよろ》と上手の襖から去っていく。

チエコウイン けッ、二度とこの家の敷居を跨ぐんやないで……!!

アナウンサー あー、でも、ちよつと可哀そー……

チエコウイン あんたもいつまでこゝでチヨロチヨロしてんねんな。えゝ加減、外の連中んとこへ戻つたらどないやねん……

アナウンサー えー、でもでも、折角、異星人にインタヴューできそうですし

……

父親 皆さん、もう、出て行って下さい……

チエコウイン ほら、ご主人かて、あゝ云うてはる……

父親 チエコウインさん、あんたもや……

チエコウイン えーッ、このチエコウイン・タカイコまで出て行けと……!!

父親 あんた、そんな名前やったんか……

アナウンサー えーと、もう少し、取材を……

父親 お帰り下さい……

チエコウイン せやせや、あんたは、さっさと——

父親 チエコウインさんもです……!!

チエコウイン まあまあ、ご主人、そないなカタいこと云わはらんと、隣近所のヨシミいうもんが――

父親 出てけ云うたら出てけッ……!!

アナウンサー あ、はい、じゃ……

チエコウイン チッ、こゝはひとまず引き上げやッ。I shall return……!

ト、叫びつゝ、チエコウインさん、アナウンサーの腕を掴むと、上の襖から飛び出して去る。

父親 さ、えらい遅なつてしもたけど、お昼ご飯にしようか…… (ト、立ち上がり、下手の襖を通つて、茶碗を取りに行く)

母親 あ、そうですね…… (ト、続いて立ち上がり、炊飯器を取りに行く)

マリ うん…… (卓袱台の位置を直す)

正面にマリが坐わり、両側に父親と母親が、茶碗と炊飯器を持ってきて坐わる。

その間にも、次第に家の外のざわめきが大きくなる。拡声器を通して、「直ちに、異星人から離れ、外に出なさい。建物の外に、直ぐ

に出なさい」という声が聞こえてくるが、いつかしらそれは、一九六九年一月、安田講堂を取り囲んだ機動隊の声に成つて行く。

マリ はい…… (ト、茶碗を母親に突き出す)

母親 はい…… (ト、それを受け取ると、ご飯をよそつて返す)

父親 はい…… (ト、茶碗を渡す)

母親 はい…… (ト、よそつて返す)

三人 いただきます……!

母親 (箸をつけようとして) あの時に、似てますね……

父親 (箸をつけようとして) けど大丈夫や、この家がある限り、大丈夫や……

……

マリ お父さん……

父親 一家で食事こそ、家族の基本やからな……

ト、箸を茶碗に下ろした刹那、大音響と共に、家に亀裂が走る。

狼狽《うろた》える三人。

充滿する煙の中、照明は明滅し、遂には消えてしまふ。

父親 何や、何や、何が起こったんや……？
母親 マリ、大丈夫……？
マリ だいじょうぶ。お母さんとお父さんは……？
母親 大丈夫よ……
父親 大丈夫や……
マリ あれ、あそこに光ってるのって、アルクトウルス……？
母親 何云ってるんの、マリ、どうして星が――
父親 あーッ、天井があれへんッ……
母親 えーッ……
マリ あ、巨大生物……！
母親 いつの間に……
父親 クソッ、この辺りを封鎖しとった奴らは、何しとんねん……！
母親 円盤……！
父親 えッ……
マリ ジョブ星人だ……

闇の中に一条の光が差して、異星人が浮かび上がる。

マリ そこ、危ないッ！ すぐそこに巨大生物がッ……！
異星人 安心して下さい……
三人 ……？
異星人 この巨大生物は、わたしが連れてきました……
三人 えーッ……！
異星人 もう暴れません……
父親 一寸待てッ、そんなら、これは、お前の仕業か……！
異星人 そうです……
母親 どうして……
異星人 あなた達の間違いを正すため……
マリ 間違いつて……
異星人 いつになったら学ぶのですか……
マリ そのフレーズ……
異星人 家は、家族ではありません……
父親 え……
異星人 家族を自分自身のように愛することは、愛ではありません……
母親 でも……
異星人 自分自身と同じ人間は、この宇宙には存在しません……

マリ それって……

異星人 家族であり続けようとする事だけが、家族です……

マリ ありつづけようとする……

異星人 伝えようとする事だけが、言葉です……

マリ 伝えようとする……

異星人 (手話で「わたしはあなたを愛しています」と話す) ……

マリ あ……(ゆっくりと、真似をする)

異星人 立て籠もる皆なんかなくなっても、たとえ野ばらの真ん中であって、
家族は、家族です……

母親 あ、まさか、それで家を壊したの……？

父親 そんな、火炎瓶より過激な……

マリ じゃあ、こゝは……

異星人 アルカディアの野原……

父親 何やねん、アルカディアって……？

異星人 あなた達、マチガイ、わかった……

マリ あれ、言葉が……

異星人 でも、ワタシも、よく、マチガウ……

父親 間違うって……

異星人 こないだから、このイエ、モクピヨウ、でも、あちこちマチガッタ……

……

母親 え、じゃあ、ネツさんとことか……

父親 あんた、何ちゆうことすんねんな……

異星人 マリ……

マリ なに……

異星人 サヨナラ……

マリ あ、まつて……

異星人 ぴ、ぷ……

マリ ねえ……

異星人 ペ……

異星人、例の巨大なテレビの枠の中に這入る。
途端に、巨大なテレビ枠は動き出し、彼方へと去っていく。
惘然《ぼうぜん》と見送る三人。

父親 円盤やったんかい、あれ……

暗転。

6 花Ⅱ (Les Fleurs II)

早朝。

明るくなると、ぼろぼろになった家。
テレビがついている。

アナウンサーの声 ……軍は、西岸の自治区と難民キャンプに侵攻し、自治区と難民キャンプで、八人が死亡しました。多数の犠牲者を出した先週末の自爆テロ事件を受け、軍の戦車や車両は今日未明、難民キャンプに侵攻しました。現地の報告では、地元の武装集団と激しい銃撃戦が発生し、キャンプ内で発生した銃撃戦で、十七歳の少女を含む三人が死亡。他の一般市民にも二人の犠牲者が出た模様です。これにより、米特使の目指していた今週中の停戦合意は困難な見通しとなりました……

132

廳で、父親が、瓦礫の中から掘り出してきた茶碗、お箸、湯飲み、小皿なんかを抱えて現れ、上手側に坐わると、卓上に並べ始める。
マリがおかずと味噌汁の這入ったお椀と急須をお盆に載せて運んでくると、下手側に坐わり、運んできたものを卓上に並べ出す。父親は、みんなの湯飲みに、急須からお茶を注いだりする。
最後に、母親が、これまた無事に残っていた炊飯器を下げて現れ、正面奥に坐わる。

マリ はい…… (ト、茶碗を母親に突き出す)

母親 はい…… (ト、それを受け取ると、ご飯をよそって返す)

父親 はい…… (ト、茶碗を渡す)

母親 はい…… (ト、よそって返す)

三人 いただきます……!

マリ (箸を付け掛けて、不意に) あ……

母親 何……??

マリ 風……

父親 開いてんのとちやうか、玄関……

母親 だって、隙間だらけだもの、この家……

133

マリ (くんくんと匂いを嗅ぐ) ……
母親 匂う、何か……?
マリ なんか、昔、よく遊んだ野原の……
母親 野原の……?
マリ お花……

途端に、中央の壁の亀裂から眩《まばゆ》い光が差し込む。ト、その亀裂から壁が左右に割れ、家の残骸が跡形もなく消え去ると、後には、一面の花、花、花。

そんな中、「家族」の姿、シルエットに。

「花はどこへ行った」が、ゆつたりと流れ出す。

溶暗。

幕。

【参考文献】

阿部和重(1997):『トライアングルス』無情の世界』講談社、1999。
阿部和重(2001):『シボニアニッポン』新潮社。

Biblia Sacra (ウルガタ聖書), [Onlin Available:2002/02/27] <http://www.gmu.edu/departments/fld/CLASSICS/bib.html>
市田泰弘(2002):『手語文法研究室』[Online Available: 2002/01/03] <http://jst.lgn.to/former/>
毎日新聞社(1995):『毎日ムック 戦後50年』新版、毎日新聞社。
本木喜美子(1995):『家族・ジェンダー・企業社会——ジェンダー・アプローチの模索』ミネソラヴァ書房。
Hloroxor, Mixajin Aurekaariporusy (Sholokhov, Mikhail Aleksandrovich), (1928-40) 「静かなベニン」[江川卓]『ショーロホフ』筑摩世界文学体系76、筑摩書房、1973。
Schreiner, Klaus (1994):『マリア——処女・母親・女主人』[内藤道雄]叢書・ユニベルシタス700、法政大学出版会、2000。
鷹取裕成(2002):『ヨブ記』[Onlin Available:2002/02/27] <http://akashichurch.hoops.ne.jp/job.html>
TAT(2002):『大阪の手話』[Onlin Available:2002/01/03] <http://www.bd.wakwak.com/~tat/>
上野千鶴子(1994):『近代家族の成立と終焉』岩波書店。
矢作俊彦(1990):『スズキさんの休息と遍歴』またはかくも誇らかなるドーシーボーの騎行』新潮文庫、新潮社、1994。

【附録】

「花はどこへ行った」ピート・シーガー(Pete Seeger) (一九五五／六一)

花はどこへ行った 長い時が経ちました

花はどこへ行った ずいぶん前のこと

花はどこへ行った みんな娘たちが摘んでいった

あゝ、いったいいつになったら学ぶのだろう

あゝ、いつになったら学ぶのか

娘たちはどこへ行った 長い時が経ちました

娘たちはどこへ行った ずいぶん前のこと
娘たちはどこへ行った みんな若者たちとどこへお嫁に行った
あゝ、いったいいつになつたら学ぶのだろう
あゝ、いつになつたら学ぶのか

若者たちはどこへ行った 長い時が経ちました
若者たちはどこへ行った ずいぶん前のこと
若者たちはどこへ行った みんな兵隊に行った
あゝ、いったいいつになつたら学ぶのだろう
あゝ、いつになつたら学ぶのか

兵士たちはどこへ行った 長い時が経ちました
兵士たちはどこへ行った ずいぶん前のこと
兵士たちはどこへ行った みんなお墓に行った
あゝ、いったいいつになつたら学ぶのだろう
あゝ、いつになつたら学ぶのか

お墓はどこへ行った 長い時が経ちました
お墓はどこへ行った ずいぶん前のこと
お墓はどこへ行った みんな朽ちて花になった
あゝ、いったいいつになつたら学ぶのだろう
あゝ、いつになつたら学ぶのか

(PPM版では「若者たち」が「夫たち」に、そして以下の詩節が最後に増える)
花はどこへ行った 長い時が経ちました

花はどこへ行った ずいぶん前のこと
花はどこへ行った みんな娘たちが摘んでいった
あゝ、いったいいつになつたら学ぶのだろう
あゝ、いつになつたら学ぶのか

●1968年

- 1/9 円谷幸吉自殺
- 1/17-21 原子力空母エンタープライズ、佐世保寄港阻止闘争
- 1/29 東大医学部無期限スト突入
- 2/6 グルノーブル五輪開幕
- 2/20-24 金嬉老(本名、権禧老「クオン・ヒロ」)事件
- 3/8 ポーランド、ワルシャワ大学で学生と警官衝突
- 3/28 東大卒業式中止
- 3/30 チェコスロバキア国民議会で、スポボダ大統領選出
- 4/1-5 チェコスロバキア共産党中央委員会で新行動綱領採択、言論・宗教の自由を認める(プラハの春)
- 4/4 米でマーチン・ルーサー・キング牧師暗殺
- 4/18 霞ヶ関ビル完成
- 4/23 米西海岸、コロンビア大学ハミルトン・ホール占拠(いちご白書)
- 4/25 東名高速開通
- 4/30 コロンビア大学、ハミルトン・ホール占拠学生達を警官隊が排除。八六人逮捕
- 5/3 仏、ソルボンヌ大学周辺で学生デモ隊と警官隊衝突(五月革命)
- 5/7 仏、シャン・ゼリゼで学生デモ隊と警官隊衝突
- 5/11 仏、カルチエ・ラタンで学生と警官隊衝突
- 5/13 仏、学生と労働総同盟ゼネスト突入
- 5/21 仏、全労働者の半数八〇〇万人がスト参加
- 5/21 コロンビア大学、学生等ハミルトン・ホール再占拠するも、警官隊が排除
- 6 つげ義春、『ガロ』増刊号に「ねじ式」発表
- 6/2 米第5空軍偵察機RF4ファントム、九州大学工学部に墜落
- 6/5 米、ロバート・ケネディー民主党大統領候補、暗殺
- 6/6 仏、ゼネスト解除へ
- 6/12 仏、カルチエ・ラタンで衝突。学生逮捕者一五〇〇人

6/27 チェコ4紙、バツリーク起草の「二〇〇〇語宣言」を掲載
 6/29 チェコ共産党、「二〇〇〇語宣言」を批判
 6/30 仏総選挙、ドゴール派の地滑り的大勝利
 7/2 東大安田講堂、反代々木系学生によりバリケード封鎖
 7/5 東大全共闘結成
 7/7 参院選で、石原慎太郎トップ当選
 7/11 ソ連共産党機関誌『プラウダ』、「二〇〇〇語宣言」を反革命として批判
 8/20 ソ連・東欧五ヶ国軍、チェコスロバキアに侵入
 8/21 チェコの首都プラハ占領
 8/23-26 チェコ・スボバダ大統領、ソ連と会談
 8末 米、コロンビア大学カーク学長辞任
 10/11-11/5 連続射殺事件
 10/12-27 メキシコ五輪
 10/12 東大全学無期限スト
 10/16 ソ連・チェコ、ソ連軍暫定駐留協定調印
 10/17 川端康成、ノーベル文学賞受賞
 10/21 国際反戦デー。全国六〇〇ヶ所で集会・デモ
 11/1 大河内一男・東大総長辞任
 11/4 加藤一郎・東大法学部教授、総長代行に就任
 11/6 米大統領選、ニクソン勝利
 11/12 東大全学バリケードを巡って、反代々木系と代々木系学生が乱闘
 11/22 東大で自主管理による「駒場祭」開催（とめてくれるな おっかさん 背中のいちようが泣いている 男東大どこへ行く・橋本治作のボスター）
 11/27 自民党総裁選、佐藤栄作三選
 12/10 東京・府中で、三億円事件
 12/10 東大駒場で社青同解放派と革マル派の内ゲバ
 12/16 元横網双葉山死去
 12 アポロ8号、史上初の有人月周回飛行

●1969年

1/2 皇居一般参賀で、奥崎健三、天皇をバチンコ玉で狙撃
 1/5 水野・九大学長、米墜落機の引き下ろしを巡り、引責辞任
 1/9 民青系と全共闘乱闘、加藤総長代行の要請で機動隊出動、五二人逮捕

1/11 教養学部代議員大会でスト解除可決。農・理・教育学部もスト解除。代々木系武装学生、本郷を制圧
 1/16 京大闘争開始（-9/22 時計台陥落まで）
 1/17 加藤・東大総長代行、入試のため機動隊出動要請
 1/18 午前七時、機動隊八五〇〇人出動。ヘリ三機も動員してガス弾・放水で攻撃、二五六人逮捕。神田では、中大・日大・明大など二〇〇〇人が「カルチエ・ラタン闘争」
 1/19 一七時五〇分、安田講堂封鎖解除。三七五人逮捕
 1/20 東大入試中止決定
 4/7 連続射殺事件犯人・永山則夫一九歳、逮捕（無知の涙）